

第3章 環境の現状と課題

1. 大井町の概況

(1) 位置・地勢

本町は、東京から約70km、横浜から約50kmの圏内にあり、神奈川県西部、足柄上郡の東部に位置しています。南は小田原市、西は酒匂川を境として開成町、北は松田町と秦野市、東は中井町にそれぞれ接しており、東西5.62km、南北5.18km、面積は14.38km²となっています。

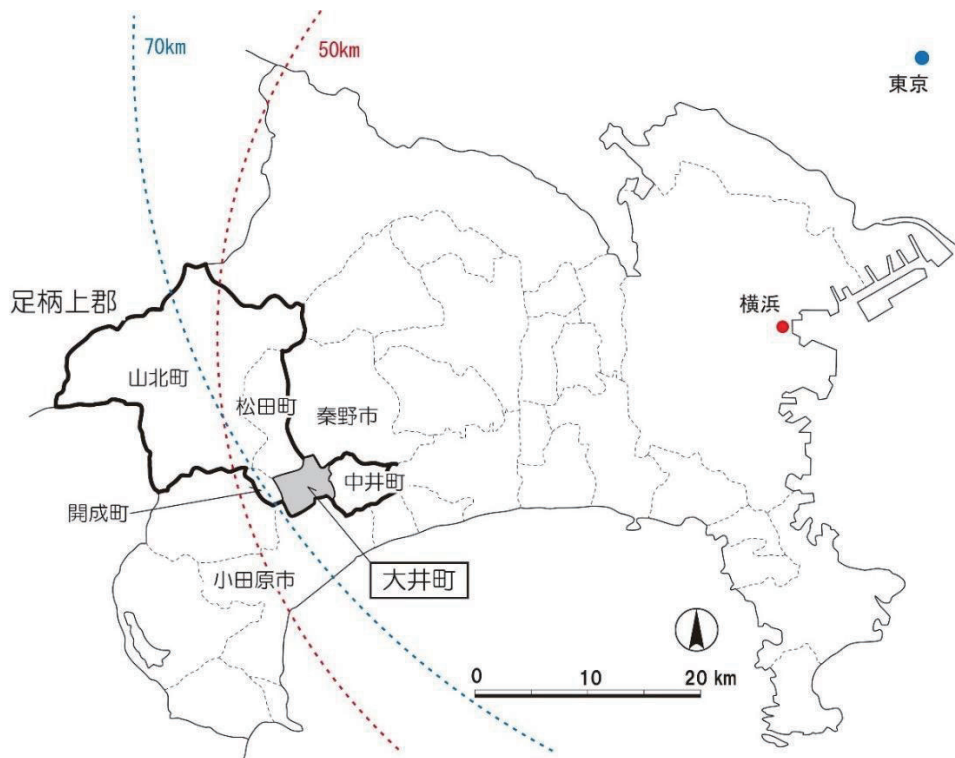


図 大井町位置図

本町は、足柄平野に位置する西側の平坦地（酒匂川や川音川の扇状地）と大磯丘陵に位置する東側の起伏に富んだ丘陵地から構成されています。

足柄平野は、丹沢山塊、大磯丘陵、箱根外輪山に囲まれるように広がっており、そのほぼ中央を酒匂川が相模湾にむけて流れています。



図 大井町位置図（緑：森林地域）

(2) 人口・世帯数

本町の令和4(2022)年の人口は17,219人、世帯数は6,961世帯です。人口は平成29(2017)年まで減少傾向にありましたが、それ以降は微増傾向が続いています。世帯数は平成27(2015)年に減少しましたが、それ以降は増加傾向にあります。一方、世帯当り人員は、近年減少傾向が続き、令和4(2022)年は2.47人となっています。

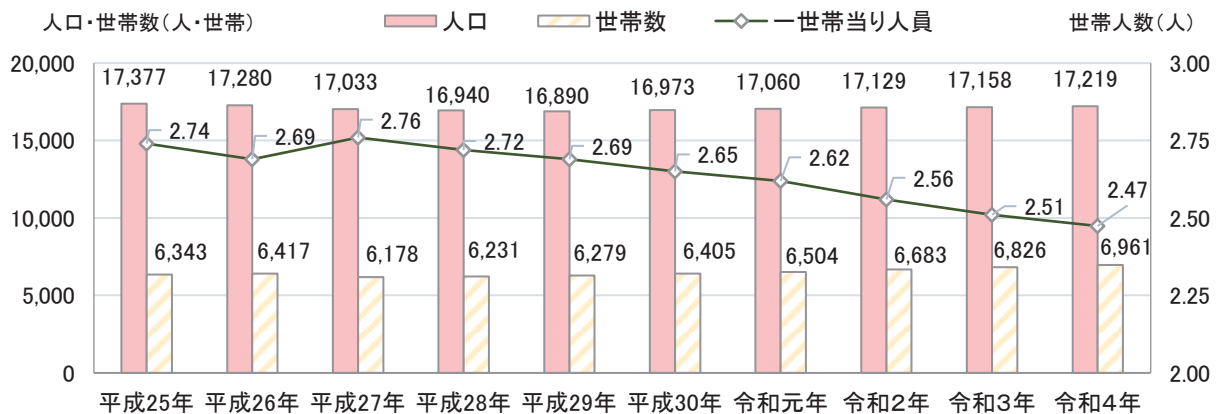


図 人口・世帯数・世帯当り人員の推移（各年10月1日現在）

出典：大井町統計要覧（資料：企画財政課）

(3) 土地利用

本町の地目別土地面積は、「その他」を除くと「山林」が最も多く、令和3(2021)年では339ha、町域の約24%を占めています。その次に「畑」が298ha（約21%）と多く、「宅地」、「田」と続いています。

近年の土地利用割合の推移を見ると、「宅地」が年々微増し、「田」が減少しています。

表 地目別土地利用面積の推移

(ha)

| 年 | 総面積 | 宅地 | 田 | 畑 | 山林 | その他 |
|-------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 平成23年 | 1,441 | 265 | 142 | 299 | 337 | 397 |
| 平成25年 | 1,441 | 266 | 141 | 299 | 337 | 399 |
| 平成27年 | 1,438 | 268 | 139 | 298 | 337 | 395 |
| 平成29年 | 1,438 | 268 | 136 | 298 | 339 | 398 |
| 令和元年 | 1,438 | 270 | 134 | 298 | 339 | 398 |
| 令和3年 | 1,438 | 271 | 131 | 298 | 339 | 400 |

※表の値は小数点以下の値により合計が総面積と合致しないこともあります。

出典：大井町統計要覧（資料：税務課（固定資産概要調書））

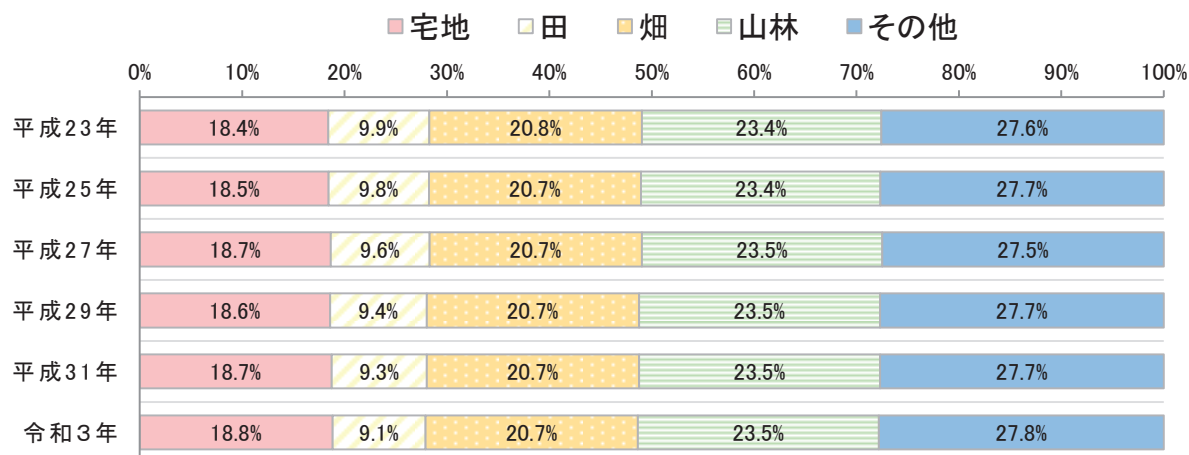


図 地目別土地利用割合の推移

出典：大井町統計要覧（資料：税務課（固定資産概要調査））

（４）産業

①産業分類別就業人口・事業所数

本町の産業分類別就業人口は、平成 27（2015）年の値で第 1 次産業が 356 人（4％）、第 2 次産業が 2,257 人（28％）、第 3 次産業が 5,496 人（68％）となっています。

また、就業人口の推移としては、平成 17（2005）年をピークとし、それ以降減少傾向で推移しています。

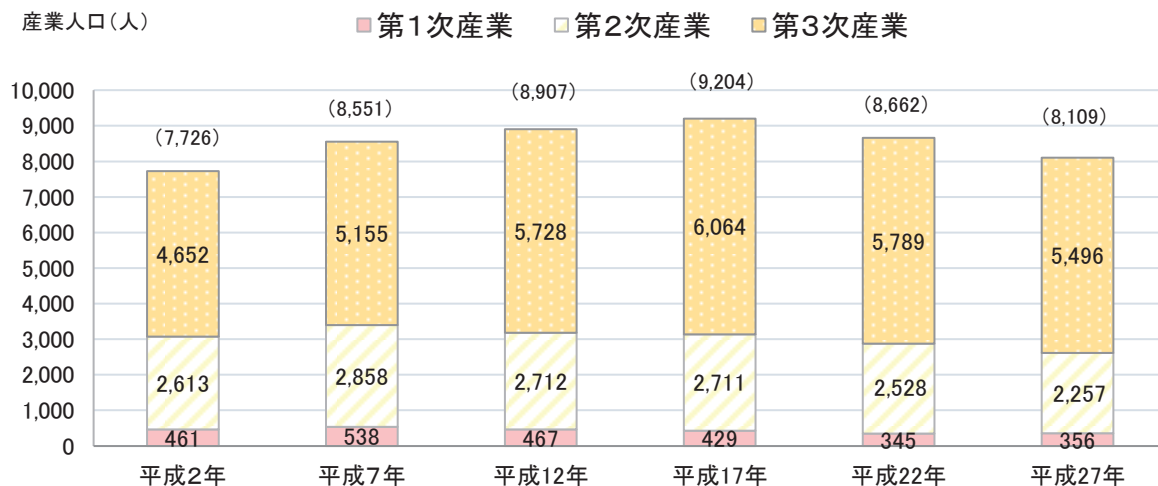


図 産業分類別就業人口の推移

出典：大井町統計要覧（資料：国勢調査）

本町の産業分類別事業所数は、第3次産業が82%（平成28（2016）年）を占めています。また、事業所数の推移としては、近年減少傾向で推移しています。

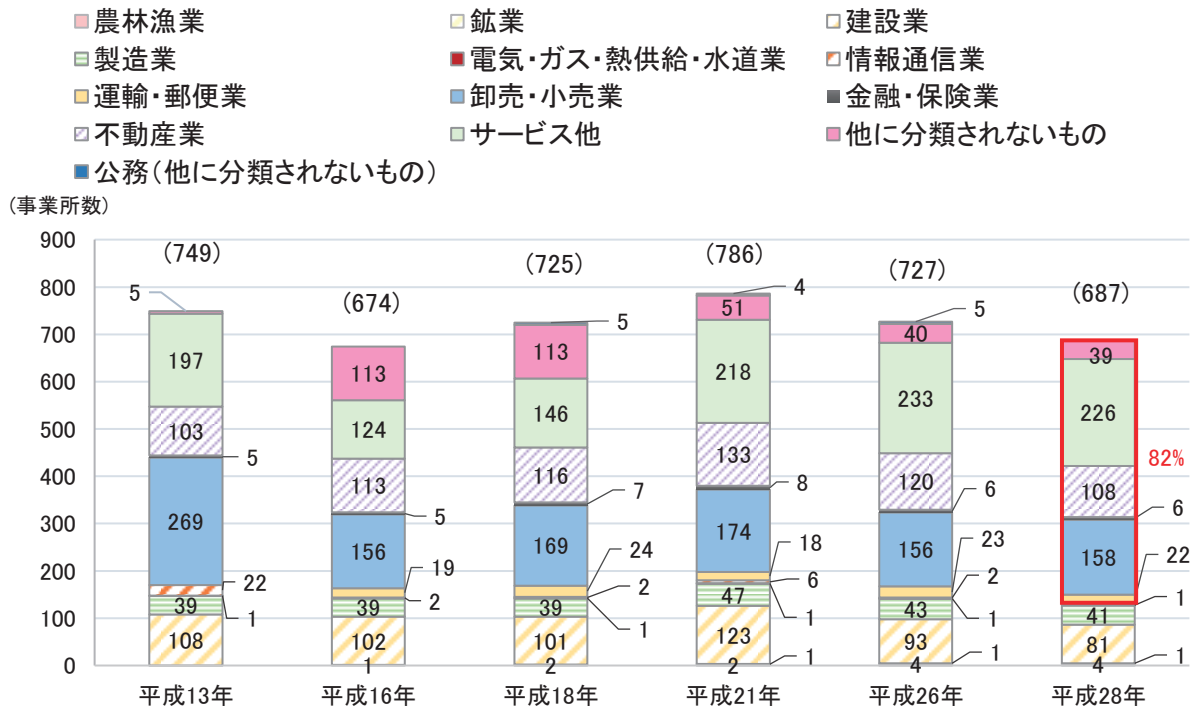


図 産業分類別事業所数の推移

※第1次産業：農林漁業

第2次産業：鉱業、建設業、製造業

第3次産業：電気・ガス・熱供給・水道業、運輸・通信業、卸売・小売業、飲食店、金融・保険業、不動産業、サービス業、他に分類されないもの、公務（他に分類されないもの）

出典：大井町統計要覧（事業所・企業統計調査、経済センサス基礎調査、経済センサス活動調査）

②工業

令和2（2020）年の事業所数（従業員数4人以上）は21事業所、製造品出荷額は14,727百万円、従業者数は523人となっています。

本町の工場数及び製造品出荷額、従業者数は、増減を繰り返しつつも概ね横ばい傾向で推移しています。

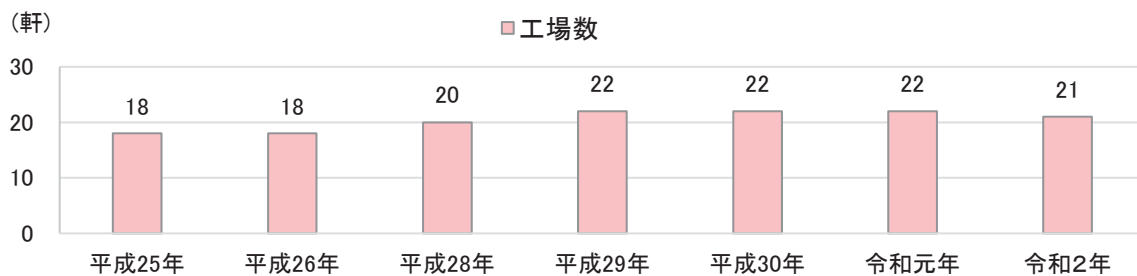


図 工場数の推移

※平成27年は「平成28年経済センサス活動調査」の実施に伴い中止となっています。

※平成28年は「平成28年経済センサス活動調査【製造業】神奈川県結果（工業統計調査結果との比較）」より記載しています。

出典：大井町統計要覧（資料：工業統計調査）

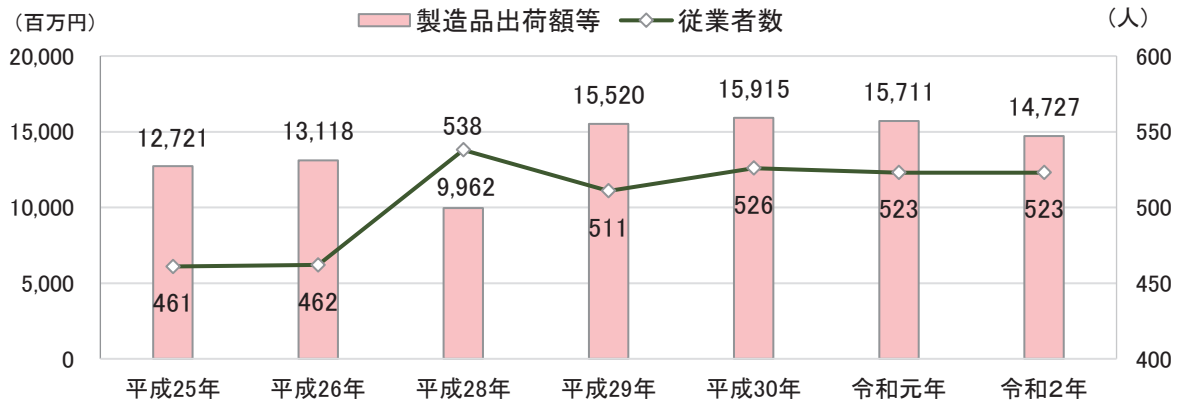


図 製造品出荷額と従業者数の推移

※平成28年は「平成28年経済センサス-活動調査【製造業】神奈川県結果（工業統計調査結果との比較）」より記載しています。

出典：大井町統計要覧（資料：工業統計調査）

③商業

本町の卸・小売業の年間販売額は平成26（2014）年で100,179百万円、事業所数は124軒となっています。年間販売額の卸売業と小売業との割合は、卸売業が80%以上（80,349百万円）を占めています。

卸・小売業の年間販売額及び事業所数は、ともに平成19（2007）年までは、ほぼ横ばい傾向で推移していましたが、その後、年間販売額は増加しているものの、事業所数が減少しており、大規模事業所が売上を伸ばしている一方で、小規模な事業所数が減少している実態が表れています。

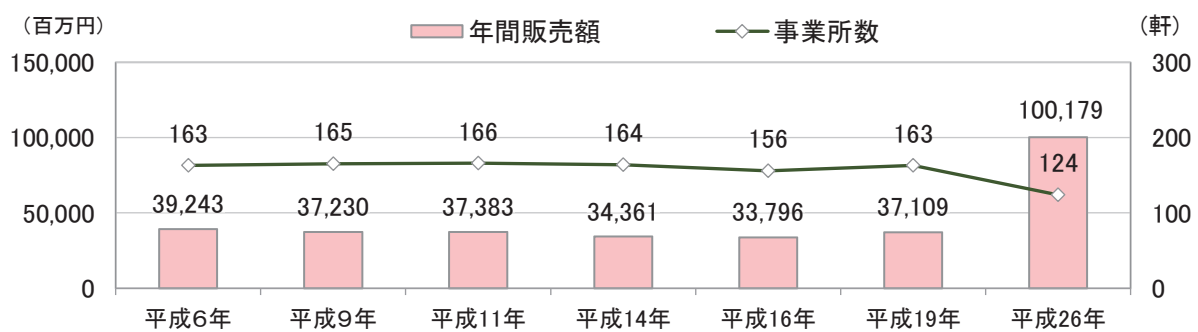


図 年間販売額・事業所数の推移

出典：大井町統計要覧（資料：商業統計調査）

④農業

本町の農家数は年々減少しており、令和2（2020）年の農家数は192戸、世帯数に対する農家割合は2.9%となっています。25年前と比べて378戸も減少（約66%減）しています。

また、経営耕地面積も年々減少しており、令和2（2020）年の面積は14,310a、25年前と比べて14,889aも減少（約51%減）しています。

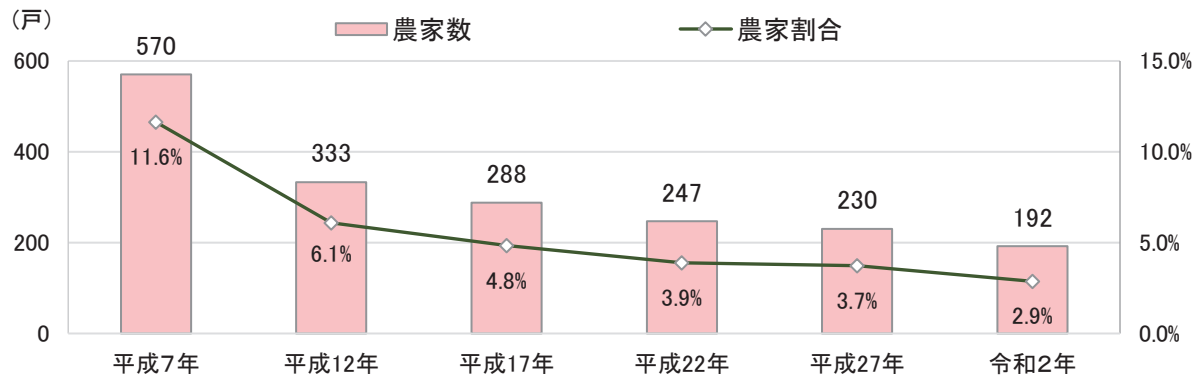


図 農家数・農家割合の推移

出典：大井町統計要覧（資料：農林業センサス）

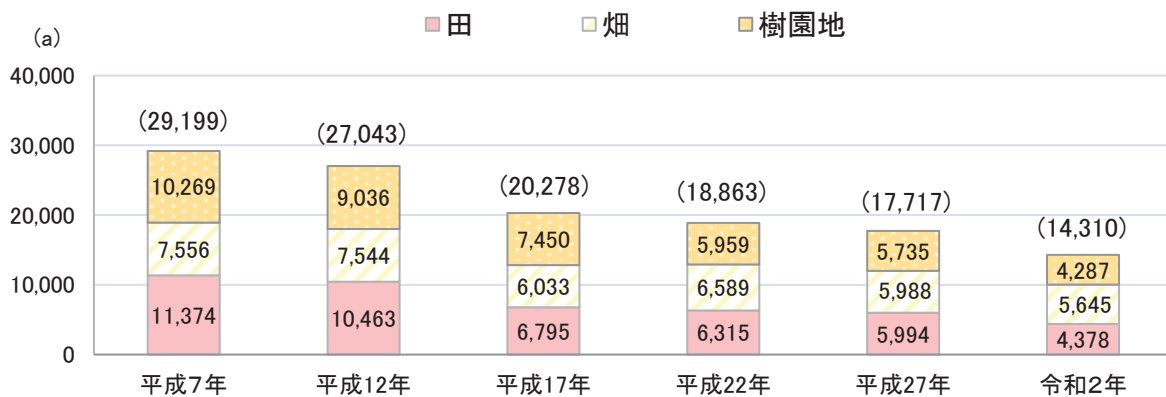


図 経営耕地面積の推移

出典：大井町統計要覧（資料：農林業センサス）

本町における農業産出額は、令和元（2019）年度で530百万円であり、その耕種別でみると、野菜が240百万円で46%を占めており、次いで果実が130百万円で25%、米が90百万円で17%と続きます。

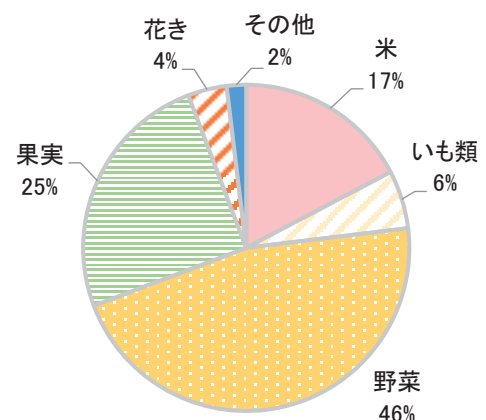


図 耕種別農業産出額（推計）（令和元年）

出典：関東農林水産統計年報

なお、本町では有害鳥獣による農作物被害を防止するため、防護柵設置補助や有害鳥獣捕獲助成事業を推進するとともに、生態系との調和を図りつつ有害鳥獣の駆除を行っています。

表 有害鳥獣の駆除実績

| 鳥 獣 | 平成 28 年度 | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 令和元年度 | 令和 2 年度 | 令和 3 年度 |
|-------|----------|----------|----------|-------|---------|---------|
| イノシシ | 55 頭 | 82 頭 | 79 頭 | 140 頭 | 127 頭 | 75 頭 |
| シカ | 26 頭 | 33 頭 | 37 頭 | 55 頭 | 73 頭 | 63 頭 |
| ハクビシン | 11 頭 | 20 頭 | 11 頭 | 11 頭 | 7 頭 | 12 頭 |
| タヌキ | 32 頭 | 15 頭 | 17 頭 | 13 頭 | 11 頭 | 11 頭 |
| アライグマ | — | — | 3 頭 | 2 頭 | 13 頭 | 4 頭 |
| アナグマ | — | — | — | — | — | 8 頭 |

出典：大井町環境行動計画（町の行動）実績報告書

コラム

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律の一部改正（令和4（2022）年5月）」



アメリカザリガニとアカミミガメが「条件付特定外来生物」に指定され、令和5（2023）年6月1日から以下の規制がスタートします。

【手続きなしでできること】

- 一般の方がペットとして飼育することができます。
- 水族館や学校等での飼育については、逃げ出さないような施設で飼育することが必要です。
- 飼えなくなった場合などに、責任をもって飼える人に無償で、譲ったり、譲り受けることができます。

【法律で禁止されていること】

- 生きた個体を野外に逃がしたり、放したりすることは禁止されます。また、適切な飼育を行わずに逃げ出した場合でも違法となります。
- 生きた個体の輸入、販売、購入、販売や頒布を目的とした飼育等が禁止されます。
- 無償であっても、生きた個体を広く配ること（頒布）は禁止されます。
- 冷凍や加工などをして販売するために商業的繁殖を行うことも禁止されます。



出典：環境省 HP

2. 自然環境

(1) 気象

本町の気象は、丹沢山塊等により寒冷な北風は遮られ、相模湾からの温暖な南風が入りやすいため、年間を通じて寒暖の差が少なく地域全体が良好な気象条件に恵まれています。気温、雨量、共に全地域にわたり大差なく、各種作物や果樹等の栽培も行われ、太陽と水と緑が調和した豊かな自然環境を有していると言えます。

アメダス小田原観測所の過去 30 年間における年間平均気温は 15.6℃、年間降水量は 1,975mm です。

また、横浜地方気象台の観測による年平均気温は、長期的に有意な上昇傾向を示しており、100 年当たり 1.9℃の割合で上昇しています。

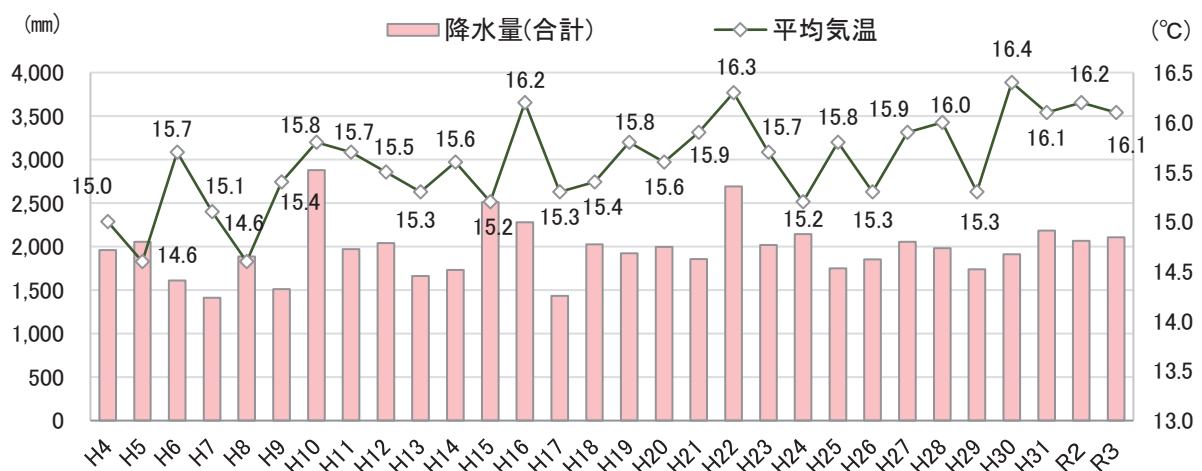


図 年間平均気温・年間降水量の推移

出典：気象庁（アメダス小田原観測所）

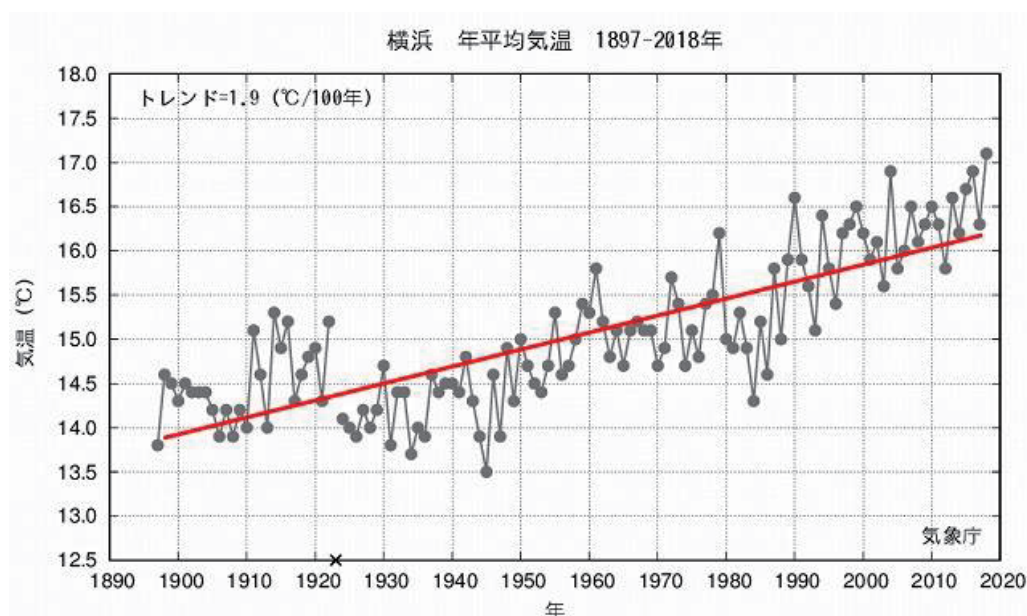


図 横浜地方気象台における年平均気温の変化

出典：神奈川県 HP

(2) 水系

本町では、酒匂川、菊川、中村川などの河川が流れており、酒匂川と菊川は小田原市に、中村川は二宮町へ流れ下っています。

また、本町の地下水は酒匂川や川音川、町内を流れる農業用水路等の水が地下に浸透し、その涵養源となっており、町民はもとより町内の工場等でも多く利用されています。さらに、町営水道においては、富士山系や丹沢山系の地下深い深層水を利用するなど、古くから地下水の恩恵を受けてきました。

一方、酒匂川や川音川から取水する用水路（酒匂堰、金田堰、和田堰、鬼柳堰）は、古くから平坦部で広く整備され、水田の灌漑用水としての役割を果たしてきましたが、現在では宅地化が進んだことから都市排水路としての重要な役割も担っています。



菊 川



酒勾堰

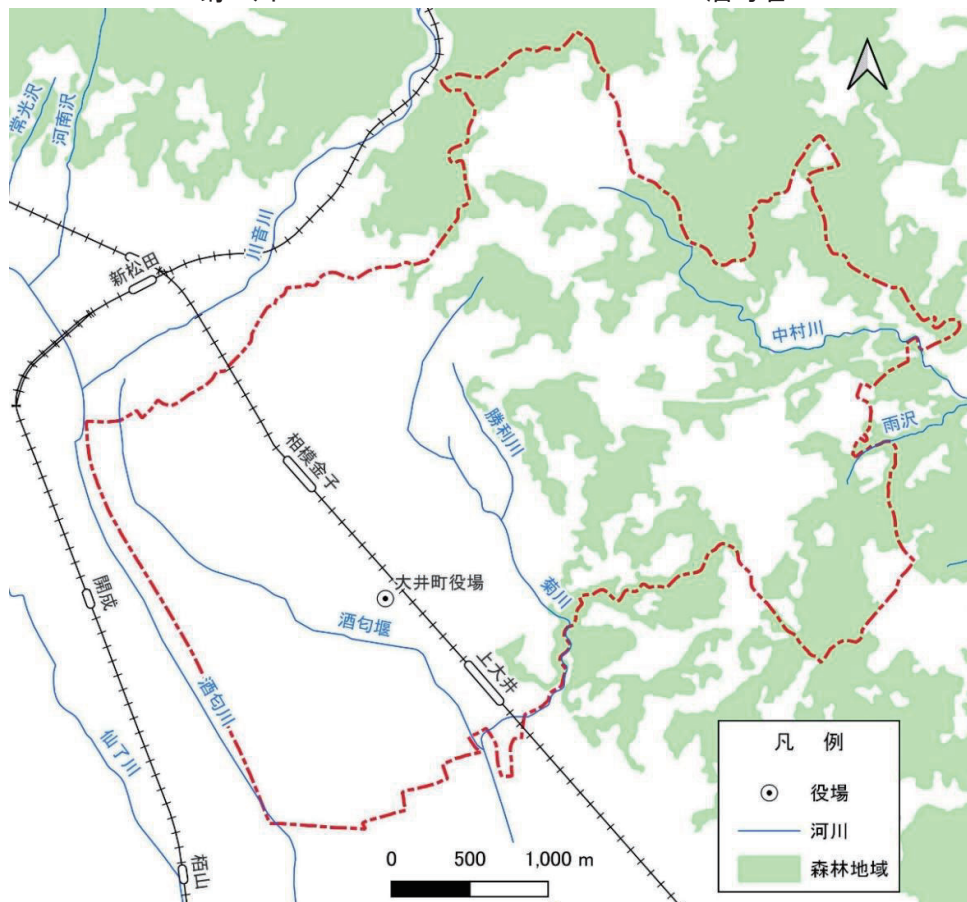


図 本町の主な河川

出典：国土数値情報データ（国土交通省）

(3) 湧水

本町は、西側の平坦地から東側の起伏に富んだ丘陵地まで、川、低地、扇状地、丘陵地と、様々な地形で成り立っており、河川のみならず地下水も豊富で水に恵まれた町です。町内の各所に湧水が湧き出ている場所があります。ただし、一部では湧水量が減少傾向にあるという指摘もあります。



蛍の水

表 主な湧水

| 名称（通称） | 概 要 |
|----------|---|
| 「蛍の水」湧水地 | 秦野市と大井町の境に横たわる名羅甲丘陵の南裾が水源といわれており、昔から一度も枯渇したことがなく、かつては生活用水としても使われており、篠窪の住民にとって貴重な水源として親しまれてきました。 |
| 崖っぷちの湧泉 | 最明寺の裏手、標高 100m あたりに位置し、昔からこの地域の簡易水道の水源として利用されてきました。集水域は比較的狭いため、湧水量はあまり多くはありません。 |
| 台地上の湧泉 | 了義寺の裏手の斜面にあり、流れ落ちた水は池の水源となり、さらに菊川の源流の一つとなっています。 |
| 獅子窪集落の湧泉 | 湧水量はあまり多くはないものの、獅子窪集落の中心にあり、菊川の源流の一つとなっています。 |

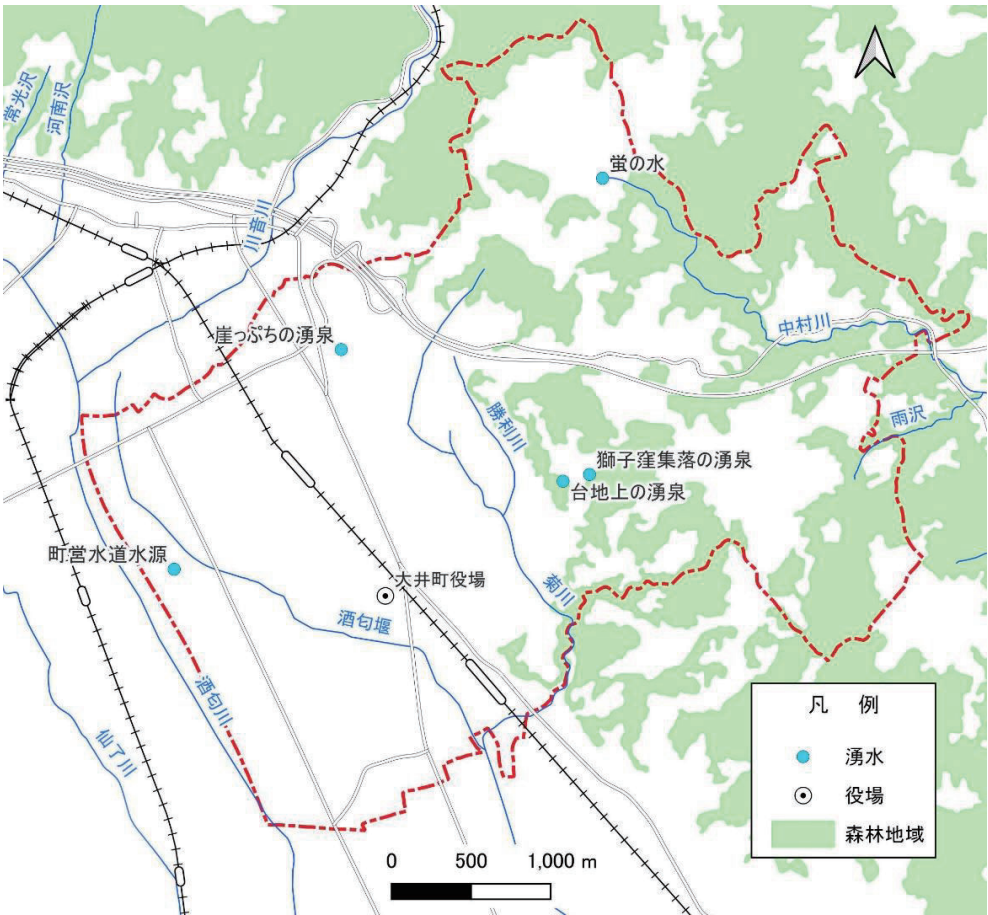


図 湧水等の位置図

出典：国土数値情報データ（国土交通省）

(4) 保全地域と地域水源林

本町の東部に位置する丘陵には、広く森林地域が広がっており、県の自然環境保全地域や保安林に指定された区域があります。また、鳥獣保護区としては、開成町との境を流れる酒匂川その他、三嶋社、了義寺のエリアが指定されています。

また、本町では、水源涵養、土砂の流失・崩壊防止、里山景観の形成、多様な動植物の生息の場として、森林の持つ公益的機能の再生を図るため、森林整備を進めており、令和3(2021)年度現在、35.3haの面積を整備し、地域水源林整備率は47.14%です。



了義寺周辺の自然環境保全地域



三嶋社周辺の自然環境保全地域

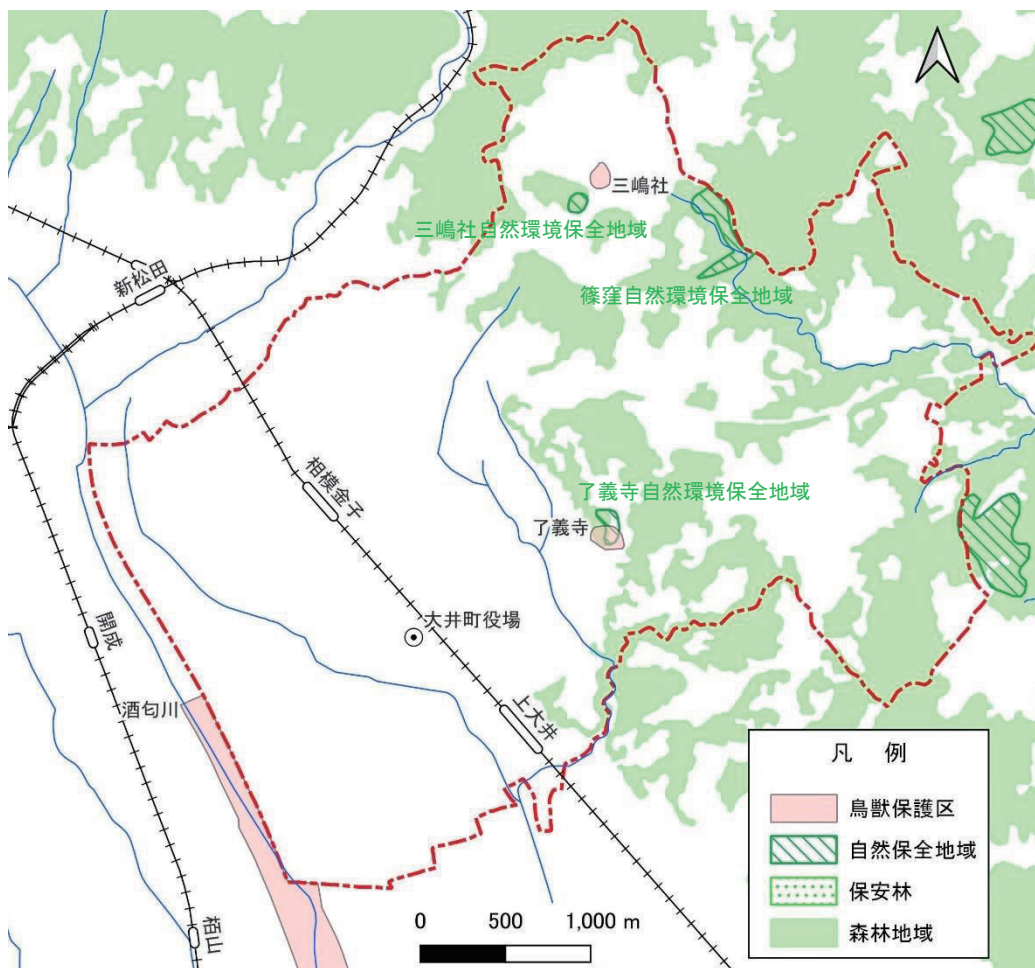


図 本町の保全地域の指定等

出典：国土数値情報データ（国土交通省）

（５）動植物

本町は、足柄平野の標高約 30m から大磯丘陵の西部に位置する高尾の竹山（308m）との間に、川、低地、扇状地、丘陵地と、様々な地形で成り立っており、それぞれの自然環境に多様な動植物が分布しています。

一方で、住宅地や商業地域の拡大が進むにつれ、動植物の生息・生育域が変化していき、国内・国外外来種の侵入や定着が進むとともに、在来種の減少や絶滅といった問題も生じています。

さらに、近年では雑木林の利用が行われなくなったこともあり、カシノナガナキクイムシが媒介するナラ枯れ被害が平成 30（2018）年～令和 3（2021）年に爆発的な広がりを見せています。

以下に大井町史をもとに、町内で見られる動植物の概要を記します。

①動物

1) 丘陵部の動物

高尾、赤田、篠窪などに断続的に展開する里山では、ヒメネズミ、ニホンリス、タヌキ、アナグマなどが見られ、かつてはムササビも生息していました。野鳥では、夏鳥としてキビタキ、オオルリ、クロツグミ、留鳥のアオゲラなど、山地性の種類も見られます。また、これらの地域では、オオタカやノスリなど、猛禽類の出現も比較的高いです。は虫類では、タカチホヘビ、ジムグリ、ヒバカリなどが確認され、昆虫ではオオムラサキ、ノコギリクワガタ、ハグロトンボ、ヒガシキリギリス、ヒグラシなど確認されています。

2) 平野部の動物

平野部では、水鳥が多く確認され、特に春と秋にのみ確認される渡り鳥が多いことが特徴的です。渡り鳥は主に酒匂川の中州や水辺で確認されますが、同時に酒匂川の後背湿地として豊富な餌と安心して休息できる場となる水田や休耕田にも多く見られ、渡り鳥にとっては、欠かすことのできない環境となっています。その他、酒匂川の河川敷では、イタチなどのほ乳類が確認されています。しかし、トウキョウダルマガエル、イモリ、ツバメ、スズメなどは、平野部から徐々に姿を消していつています。

一方で、コハクオナジマイマイ、アカボシゴマダラ、ヨコヅナサシガメ、キマダラカメムシ、ムネアカハラビロカマキリ、ガビチョウなど、国内外の外来種が増えつつある状況です。



コサギ

出典：大井町の動物

②植物

1) 植生

本町の気候は温暖で、夏に雨の多い太平洋型の気候であり、常緑広葉樹林が覆っている植生帯にあたります。今日では、自然状態の常緑広葉樹林帯を見ることは難しくなっていますが、本町では篠窪の三嶋社や山田の了義寺

周辺の森に、この地方の潜在自然植生である常緑広葉樹林のなごりを見ることができます。

本町の丘陵部は、細かい谷が縦横に刻み込まれた複雑な地形に、薪炭林として利用してきた雑木林、畑、果樹園など様々な植生がモザイク状に分布しています。

平野部は、酒匂川の河川植生も含めて自然植生はほとんど現存せず、水田や畑の耕地雑草群落と酒匂川の土手などに見られる多年草群落や河川敷の草本群落が主となります。



三嶋社

2) 丘陵部の植物

丘陵地西側の斜面の下部はアラカシ、ムクノキやケヤキの林、上部にはコナラの林が覆っています。なだらかな陽当たり恵まれているところでは、ミカンが作られており、頂上部では、クスノキやサクラが植栽されています。また、標高も低い平坦な部分と丘陵地の境界部に了義寺があり、本堂背後にスダジイが優占する常緑広葉樹林が生育しています。

丘陵地の急斜面、北向き斜面、尾根筋にはコナラ、クヌギ、イヌシデなどの雑木林が残され、谷筋にはスギやヒノキが植林されています。丘陵地のほぼ中央に位置する「いこいの村あしがら（ラ・レイエス湘南）」周辺では、野菜やミカン、クリ、ウメなどの果樹が作られています。

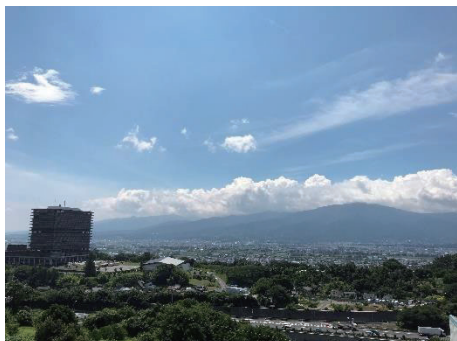
東名高速道路を隔てて、町の北部は雑木林や植林地が広がり、自然環境がより豊かに保たれています。盆地状の篠窪の集落には、常緑広葉樹林の自然林（スダジイ、モクレイシ等）の姿を残す三嶋社の鎮守の森があります。その他、クリ畑、コナラやクヌギの雑木林、スギ・ヒノキの植林などが多く残っています。

3) 平野部の植物

酒匂川の河原には、ツルヨシなどの草原、堤防にはススキやオギ、クズなどの群落が生育しており、重点対策外来種に指定されているオオブタクサもみられます。その他、水田が広がるとともに果樹園も残っています。

(6) 景観

本町は、足柄平野を流れる酒匂川と低地に広がる水田、丘陵地の巨木や里山の風景、高台から見た富士山や箱根の山々など、四季を通じて美しい景観を有しており、特に町内のどこからでも富士山が見えるという特色があります。



上山田から見た足柄平野



酒匂川



酒匂川の松並木



平野部に広がる水田



おおいゆめの里



山田から見た富士山



赤田のしいのき



赤田から見た丹沢山地

3. 生活環境

(1) 大気

本町の大気の様子は、近隣自治体における大気汚染物質の測定結果を参考とすると、環境基準を満たしており、概ね改善傾向にあると言えます。

■一般環境大気測定結果 測定局：南足柄市生駒

| 項 目 | 単位 | 年 平 均 値 | | | |
|--------------------------|-------------------|----------|----------|----------|---------|
| | | 平成 23 年度 | 平成 26 年度 | 平成 29 年度 | 令和 2 年度 |
| 二酸化硫黄 (SO ₂) | ppm | 0.001 | 0.002 | 0.003 | 0.002 |
| 二酸化窒素 (NO ₂) | ppm | 0.008 | 0.008 | 0.006 | 0.005 |
| 一酸化窒素 (NO) | ppm | 0.002 | 0.002 | 0.002 | 0.001 |
| 浮遊粒子状物質 (SPM) | mg/m ³ | 0.021 | 0.022 | 0.016 | 0.016 |
| 光化学オキシダント (Ox) | ppm | 0.044 | 0.049 | 0.045 | 0.048 |
| 微小粒子状物質 (PM2.5) | μg/m ³ | — | 9.0 | 6.4 | 6.1 |

出典：神奈川県大気汚染常時監視測定結果

■自動車排出ガス測定結果 測定局：小田原市民会館

| 項 目 | 単位 | 年 平 均 値 | | | |
|--------------------------|-------------------|----------|----------|----------|---------|
| | | 平成 23 年度 | 平成 26 年度 | 平成 29 年度 | 令和 2 年度 |
| 二酸化窒素 (NO ₂) | ppm | 0.014 | 0.012 | 0.011 | 0.009 |
| 一酸化窒素 (NO) | ppm | 0.008 | 0.006 | 0.005 | 0.004 |
| 浮遊粒子状物質 (SPM) | mg/m ³ | 0.024 | 0.023 | 0.020 | 0.019 |

出典：神奈川県大気汚染常時監視測定結果

(参考：大気汚染に係る環境基準)

| 項 目 | 環 境 基 準 |
|--------------------------|---|
| 二酸化硫黄 (SO ₂) | 1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。 |
| 二酸化窒素 (NO ₂) | 1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。 |
| 一酸化窒素 (NO) | 連続する 8 時間における 1 時間値の平均は、20ppm 以下であること。 連続する 24 時間における 1 時間値の平均は、10ppm 以下であること。 |
| 浮遊粒子状物質 (SPM) | 1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m ³ 以下であること。 |
| 光化学オキシダント (Ox) | 1 時間値が 0.06ppm 以下であること。 |
| 微小粒子状物質 (PM2.5) | 1 年平均値が 15 μg/m ³ 以下であり、かつ、1 日平均値が 35 μg/m ³ 以下であること。 |

(2) 水質

本町内を流れる水路の多くは農業用水路として整備され、水田等に使用されています。しかし、都市化が進むにつれ生活排水路を兼ねる水路も増加し、雨水や生活排水等の都市排水の流入も増加してきています。

そのなかで、主要な河川・水路（金田堰、酒匂堰、鬼柳堰、和田堰、菊川、勝利川）の内、9地点において水質検査を実施しており、水質検査の結果は、どの地点でも概ね良好な結果（概ね環境基準のA A～A類型相当（※））となっています。

※A A類型：ろ過等、簡易な浄水操作を行えば飲める程度（水道1級相当）

国立公園等、自然探勝等を行える環境が保全されている（自然環境保全）

※A類型：沈殿ろ過等、通常の浄水操作を行えば飲める程度（水道2級相当）

ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物が漁獲できる程度（水産1級相当）

水浴場として利用できる程度

表 町内の河川・水路の水質検査結果（生物化学的酸素消費量）（mg/ℓ）

| No | 地 点 | 平成 29 年度 | | 平成 30 年度 | | 令和元年度 | | 令和 2 年度 | | 令和 3 年度 | |
|-------|-----------|----------|--------|----------|--------|-------|-------|---------|-------|---------|-------|
| | | H29. 7 | H30. 1 | H30. 7 | H31. 1 | R1. 7 | R2. 1 | R2. 8 | R3. 1 | R3. 7 | R4. 1 |
| No. 1 | 酒匂堰・鬼柳堰上流 | 0.5 | 0.7 | 0.7 | 1.2 | 0.9 | 0.6 | 1.5 | 0.3 | 1.8 | 0.7 |
| No. 2 | 金田堰下流 | 1.3 | 0.9 | 0.7 | 1.4 | 2.1 | 0.7 | 1.8 | 2.6 | 1.7 | 0.9 |
| No. 3 | 和田堰上流 | 0.9 | 0.7 | 0.6 | 1.3 | 0.4 | 0.2 | 1.5 | 0.4 | 0.9 | 0.6 |
| No. 4 | 和田堰下流 | 0.5 | 1.1 | 0.7 | 1.3 | 0.8 | 0.4 | 1.6 | 0.5 | 1.0 | 1.1 |
| No. 5 | 酒匂堰中流 | 0.4 | 1.1 | 0.5 | 1.4 | 1.0 | 0.5 | 1.5 | 0.5 | 1.7 | 0.7 |
| No. 6 | 鬼柳堰下流 | 0.5 | 0.8 | 0.9 | 1.5 | 1.0 | 0.4 | 1.7 | 0.8 | 1.6 | 0.5 |
| No. 7 | 菊川上流 | 0.1 | 0.7 | 0.4 | 2.1 | 0.9 | 0.4 | 1.5 | 0.8 | 1.1 | 0.8 |
| No. 8 | 菊川下流 | 0.7 | 2.1 | 0.7 | 1.9 | 0.9 | 0.6 | 1.8 | 1.8 | 1.6 | 1.0 |
| No. 9 | 勝利川上流 | 0.2 | 0.8 | 0.4 | 1.2 | 0.4 | 0.2 | 1.8 | 0.7 | 0.9 | 0.4 |

出典：生活環境課資料

本町の水道水はそのすべてを地下水により賄っております。その水質に関しては、水源から蛇口に至るまで50項目以上に及ぶ水質検査及び日々の水質管理を実施しており、現在にいたるまで、異常はありません。

なお、厚生労働省の組織した「おいしい水研究会」によると、おいしい水としての項目がまとめられており、その項目について本町の水と比較すると以下となります。

表 大井町の水含有量

| 項 目 | 含有量目安 | 説 明 | 本町の水含有量 (R2 年度平均値) |
|-------|------------|--|-----------------------|
| 蒸発残留物 | 30～200mg/ℓ | 主にミネラルの含有量を示しています。量が多いと苦味、渋味が増し、適度に含まれるとこくのあるまろやかな味がします。 | 131mg/ℓ |
| 硬度 | 10～100mg/ℓ | ミネラルのなかで量的に多いカルシウムとマグネシウムの含有量を示しています。硬度の低い水はくせがなく、高いと好き嫌いがでます。カルシウムに比べてマグネシウムの多い水は苦味を増します。 | 75mg/ℓ |

| 項 目 | 含有量目安 | 説 明 | 本町の水含有量 (R2 年度平均値) |
|---------------|--------------|---|-----------------------|
| 遊離炭酸 | 3～30mg/ℓ | 溶け込んでいる炭酸分の量を示します。水にさわやかな味を与えるが、多いと刺激が強くなります。 | 3mg/ℓ |
| 過マンガン酸カリウム消費量 | 3mg/ℓ 以下 | 有機物質を示します。多いと渋味をつけ、多量に含まれると塩素の消費量に影響して水の味を損ないます。 | 0.3mg/ℓ未満 |
| 臭気度 | 3 以下 | 水源の状況により、さまざまなにおいがつくると不快な味がします。 | 0 |
| 残留塩素 | 0.4mg/ℓ以下 | 水にカルキ臭を与え、濃度が高いと水の味をまずくします。なお、水道水は、法律により、0.1mg/ℓ以上1.0mg/ℓ以下にしなければなりません。 | 0.21mg/ℓ |
| 水温 | 最高 20℃ 以下 | 冷やすことにより、おいしく飲めます。体温より 20～25℃低い 10～15℃が適温といわれています。 | 17.4℃ |

出典：大井町 HP

(3) 交通

本町の鉄道駅は、J R御殿場線の上大井駅及び相模金子駅があります。

路線バスは、利用実態に応じて行き先の変更や運行回数の削減など、運行状況の見直しが行われています。また、高齢者や交通手段を持たない町民の外出や移動を支援するため、大井町巡回バス「おおいゆめバス」の運行を行っています。

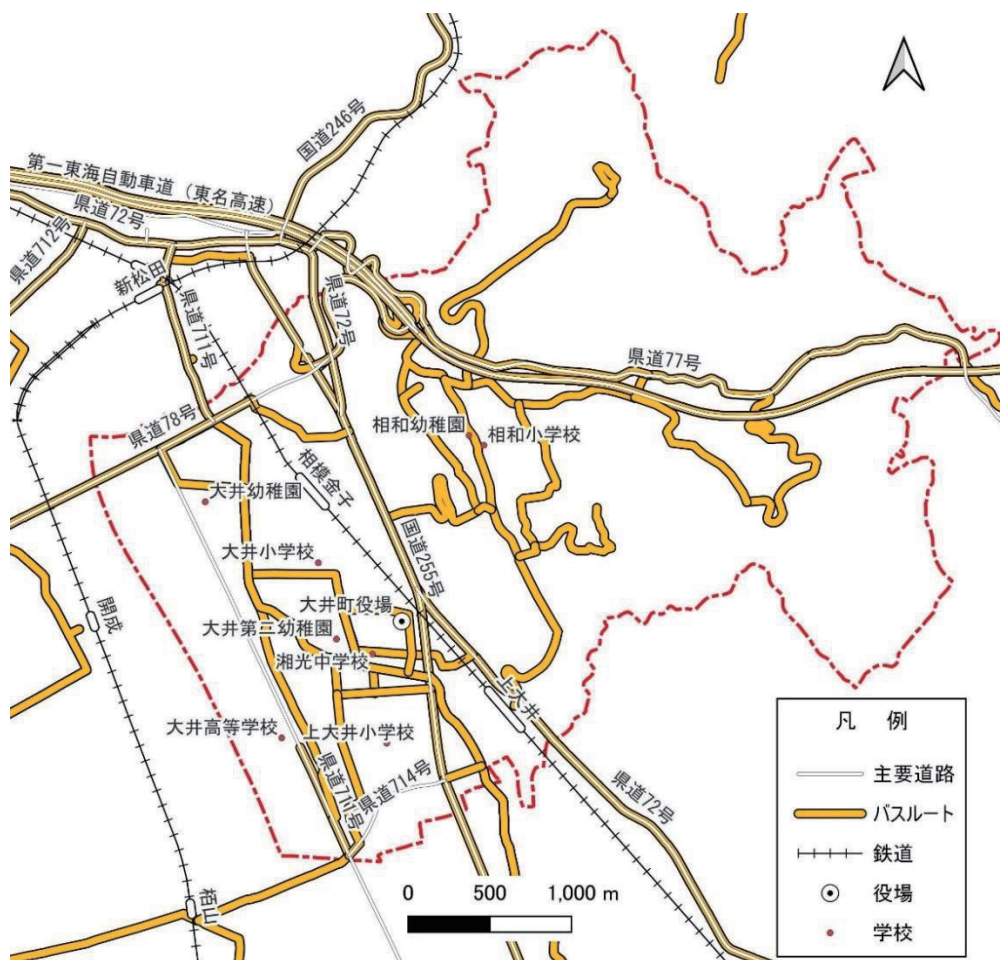


図 交通網図

出典：国土数値情報データ（国土交通省）

①鉄道

J R御殿場線の乗車人員は、平成 24（2012）年以降、両駅とも増加傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響等により、令和 2（2020）年度には両駅とも大幅に減少しています。

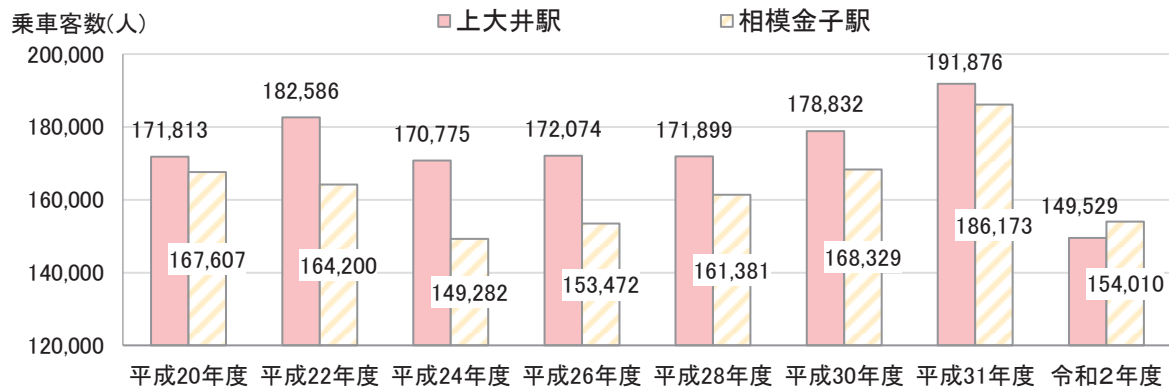


図 鉄道乗車人員の推移

出典：大井町統計要覧（資料：東海旅客鉄道(株)）

②自動車課税台数

本町の自動車課税台数は以下のとおりです。

表 自動車課税台数の推移

(台)

| 年度 | 乗用車 | 軽自動車等 | トラック | 貨客兼用車 | バス | 特殊用途 | 合計 |
|----------|-------|-------|------|-------|----|------|---------|
| 平成 24 年度 | 5,499 | 7,226 | 302 | 159 | 5 | 60 | 13, 251 |
| 平成 25 年度 | 5,418 | 7,094 | 291 | 153 | 7 | 62 | 13, 025 |
| 平成 26 年度 | 5,315 | 7,376 | 280 | 149 | 6 | 58 | 13, 184 |
| 平成 27 年度 | 5,211 | 7,294 | 281 | 158 | 6 | 64 | 13, 014 |
| 平成 28 年度 | 5,155 | 7,415 | 277 | 156 | 6 | 65 | 13, 074 |
| 平成 29 年度 | 5,205 | 7,492 | 269 | 151 | 6 | 62 | 13, 185 |
| 平成 30 年度 | 5,162 | 7,542 | 262 | 150 | 7 | 58 | 13, 181 |
| 令和元年度 | 5,167 | 7,576 | 277 | 151 | 6 | 50 | 13, 227 |

※「乗用車」は、普通車、小型車を含みます。「軽自動車等」は、軽自動車、原動機付自転車、小型特殊、二輪の小型自動車を含みます。

出典：大井町統計要覧（資料：小田原県税事務所、税務課）

(4) 公園

本町には令和4（2022）年に開園した大井中央公園をはじめ、以下の公園や広場があり、広く町民に利用されています。その他、酒匂川やおおいゆめの里といった行政が管理する緑地も、公園と類似した機能を有するオープンスペースとなっています。また、民間所有等の緑地は丘陵部に広く分布しています。

表 公園の面積（令和4年3月末）

| 分類 | | 名称 | 面積（㎡） |
|-------|------|-------------|-----------|
| 都市公園 | 近隣公園 | 大井中央公園 | 24,005.00 |
| | 街区公園 | 水神宮公園 | 1,801.28 |
| | 街区公園 | 金手児童公園 | 1,298.97 |
| | 街区公園 | 金子児童公園 | 750.00 |
| | 街区公園 | 相模金子駅前公園 | 887.03 |
| 計 | | | 28,742.28 |
| その他公園 | | 大井グリーンタウン公園 | 283.56 |
| | | 上大井駅前公園 | 2,700.35 |
| | | 西大井第1公園 | 240.22 |
| | | 西大井第2公園 | 153.35 |
| | | 西大井第3公園 | 612.75 |
| | | 湘光園開発公園 | 324.73 |
| | | エバラ公園（緑地） | 2,382.76 |
| | | 中屋敷公園 | 278.92 |
| | | （仮称）新湘光公園 | 19,396.46 |
| | | 農業休憩所 | 585.27 |
| | | 農村公園 | 983.00 |
| 計 | | | 27,941.37 |
| 広場 | | 健楽ふれあい広場 | 4,000.00 |
| 計 | | | 4,000.00 |
| 合計 | | | 60,683.65 |

出典：都市整備課資料

4. 地球環境

(1) 廃棄物

①ごみの排出状況

本町のごみの総排出量は、近年、概ね減少傾向で推移しており、令和2（2020）年度の排出処理量も5,499tと前年より減少しています。排出処理量を10年前の平成22（2010）年と比較すると、521tの減少（8.7%減）となります。ただし、新型コロナウイルス感染症による生活様式の変化等の影響により、令和2（2020）年度の内訳のなかで、資源ごみ、不燃ごみ、粗大ごみに関しては、前年の令和元（2019）年度より増加となっています。

また、令和2（2020）年12月に実施した家庭系可燃ごみの調査結果によると、容積構成比で最も多いのが、その他可燃物、次いでプラスチック製容器包装、剪定枝、紙類となっています。

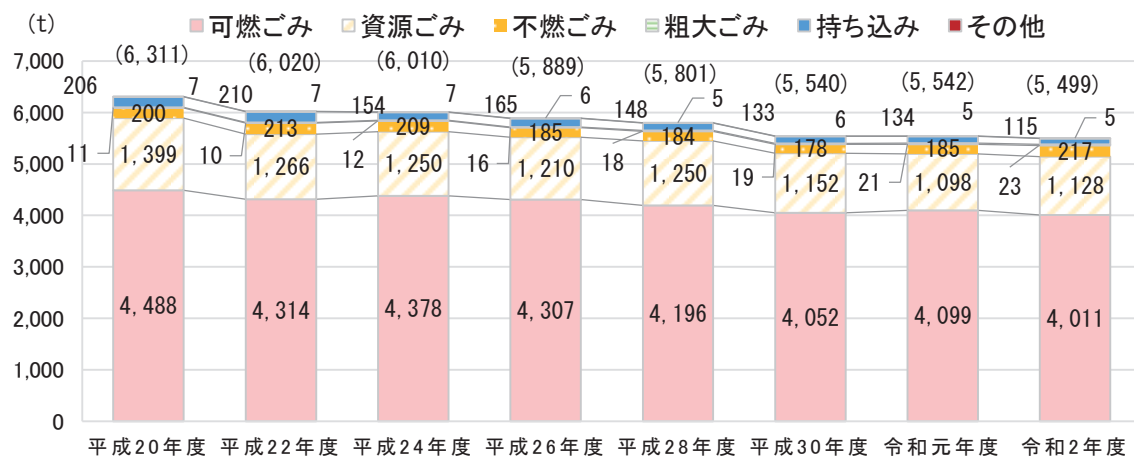


図 ごみの総排出量の推移

出典：大井町統計要覧（資料：生活環境課）

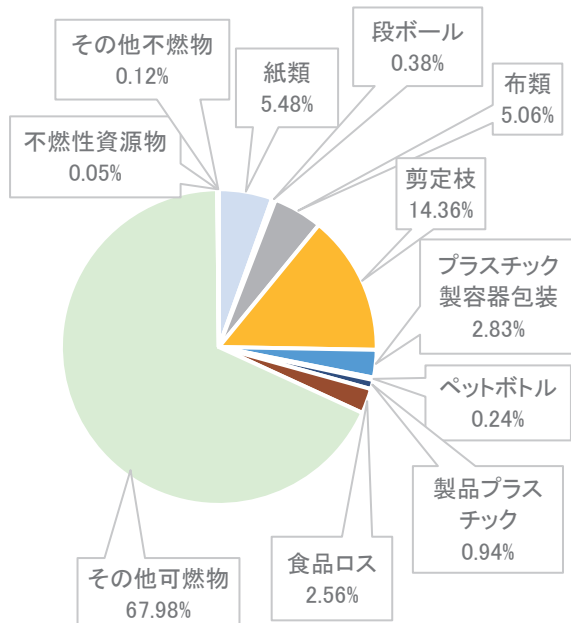


図 家庭系可燃ごみの重量構成比

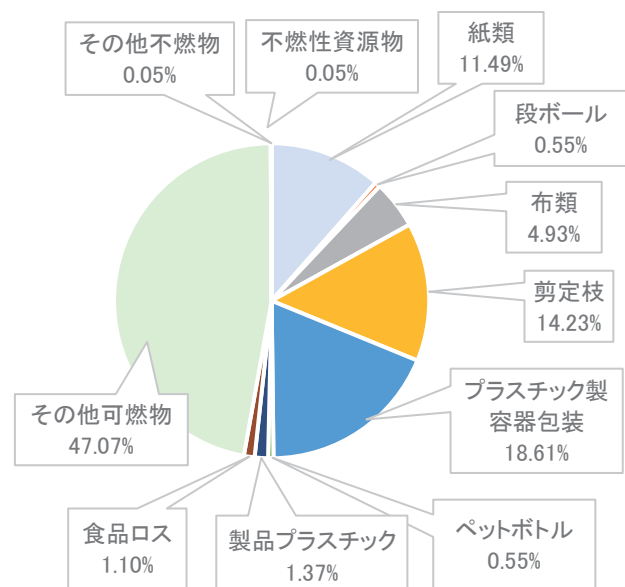


図 家庭系可燃ごみの容積構成比

出典：ごみ質調査結果報告書（令和2年12月）

なお、町民1人あたりのごみの排出量は令和3（2021）年度で718g/1人・日でした。

表 町民1人あたりのごみ排出量とごみ資源化率

| 年 度 | 1人あたりのごみの量 | ごみ資源化率（%） |
|--------|------------|-----------|
| 平成27年度 | 774g/1人・日 | 25.03 |
| 平成28年度 | 778g/1人・日 | 24.59 |
| 平成29年度 | 744g/1人・日 | 23.92 |
| 平成30年度 | 735g/1人・日 | 24.34 |
| 令和元年度 | 737g/1人・日 | 23.24 |
| 令和2年度 | 742g/1人・日 | 23.62 |
| 令和3年度 | 718g/1人・日 | 23.66 |

出典：大井町環境行動計画（町の行動）実績報告書

②資源ごみの回収

資源ごみの回収量は、近年減少傾向で推移しており、令和3（2021）年度は、支援団体が10団体、実施回数が28回、総回収量が16,887kgとなっています。

表 資源回収奨励金交付事業における回収量の推移

| 年 度 | 支援団体 | 延べ実施回数 | 総回収量（kg） |
|--------|------|--------|----------|
| 平成27年度 | 19 | 33 | 56,492 |
| 平成28年度 | 14 | 28 | 41,803 |
| 平成29年度 | 14 | 30 | 44,853 |
| 平成30年度 | 15 | 30 | 32,775 |
| 令和元年度 | 13 | 30 | 30,861 |
| 令和2年度 | 11 | 28 | 17,478 |
| 令和3年度 | 10 | 28 | 16,887 |

出典：大井町環境行動計画（町の行動）実績報告書

③1人1日あたりの食品ロス発生量

令和4（2022）年度にまとめられた「大井町食品ロス実態調査報告書」によると、家庭ごみの燃やすごみを対象とした調査結果から、調理くずを除く直接廃棄及び食べ残しとする「食品ロス」の1人1日あたりの発生量は、59.8g/人・日でした。その内訳を見ると直接廃棄（100%残存）が38.4g/人・日、食べ残しが14.9g/人・日と推計されています。

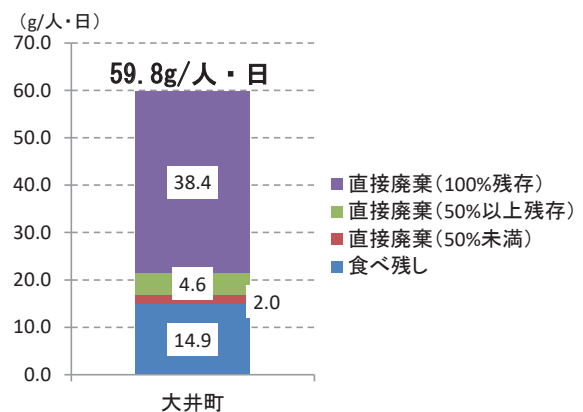


図 1人1日あたりの食品ロス発生量

出典：大井町食品ロス実態調査報告書

④剪定枝チップの利用

本町では、剪定枝破碎処理委託事業を通じて生成された剪定枝チップの使用促進を図り、ごみの減量化と家庭菜園等での幅広い活用を促進しています。

表 剪定枝の収集量の推移

| 年 度 | 収集回数 | 収集延べ件数 | 収集量 (t) |
|----------|------|--------|---------|
| 平成 27 年度 | 96 | 831 | 135.0 |
| 平成 28 年度 | 101 | 894 | 160.1 |
| 平成 29 年度 | 99 | 858 | 154.9 |
| 平成 30 年度 | 99 | 1,010 | 156.4 |
| 令和元年度 | 94 | 901 | 122.5 |
| 令和 2 年度 | 97 | 1,057 | 137.9 |
| 令和 3 年度 | 96 | 1,002 | 126.1 |

出典：大井町環境行動計画（町の行動）実績報告書

⑤段ボールコンポスト

本町では、燃えるごみに多く含まれる生ごみの減量化と再資源化を図るため、安価で堆肥化が可能な段ボールコンポストの普及促進を図っており、令和 3（2021）年度は新規 14 セット、基材のみ（継続）を 3 セット配布しました。

表 段ボールコンポスト配布状況

| 年 度 | 新規セット | 基材のみ（継続） |
|----------|--------|----------|
| 平成 27 年度 | 65 セット | — |
| 平成 28 年度 | 40 セット | 9 セット |
| 平成 29 年度 | 27 セット | 3 セット |
| 平成 30 年度 | 14 セット | 1 セット |
| 令和元年度 | 5 セット | 1 セット |
| 令和 2 年度 | 12 セット | 2 セット |
| 令和 3 年度 | 14 セット | 3 セット |

出典：大井町環境行動計画（町の行動）実績報告書

⑥環境パトロール

町内全域を対象とした環境パトロールを実施し、不法投棄防止を図るとともに、不法投棄をされた廃棄物や散乱ごみを撤去し、二次投棄の防止を図っています。

表 環境パトロールによる回収ごみ量

| 年 度 | 実施回数 | 回収した 不法投棄廃棄物 (t) | 回収した 美化清掃ごみ (t) |
|----------|------|---------------------|--------------------|
| 平成 27 年度 | 43 | 6.2 | 11.5 |
| 平成 28 年度 | 46 | 7.7 | 16.6 |
| 平成 29 年度 | 48 | 7.2 | 17.5 |
| 平成 30 年度 | 46 | 5.1 | 11.1 |
| 令和元年度 | 42 | 4.3 | 3.8 |
| 令和 2 年度 | 47 | 4.9 | 0.0 |
| 令和 3 年度 | 46 | 4.5 | 0.0 |

出典：大井町環境行動計画（町の行動）実績報告書

(2) エネルギー（参考）

①電力需要

本町の電力需要は、環境省の公表している「再生可能エネルギー情報提供システム (REPOS)」のデータによると、近年では増減を繰り返しつつ横ばい傾向にあります。

部門別にみると業務が 50%と半分を占めており、次いで家庭が 32%、製造業が 13%と続き、この3部門で全体の95%を占めます。

また、平成 26 (2014) 年から令和元 (2019) 年までの部門別の増減率を見ると、建設業・鉱業が△29.7%、農林水産業が△11.3%、家庭が△10.3%となっており、建設業・鉱業の減少率が大きくなっています。これは、建設業・鉱業の就業人口・事業所数の減少によるものと考えられます。

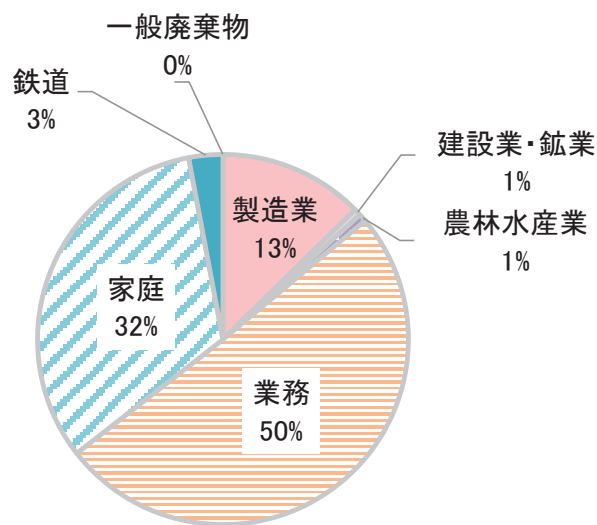


図 電力需要の部門別割合（令和元年）

出典：環境省 HP「自治体排出量カルテ」

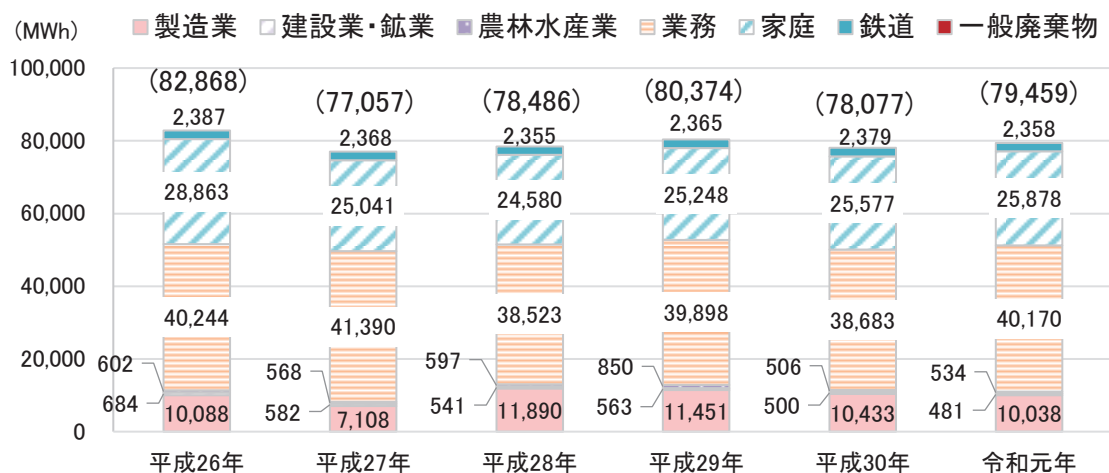


図 電力需要の推移

出典：環境省 HP「自治体排出量カルテ」

②都市ガスの使用状況

本町における令和2（2020）年度の都市ガスの使用量は385,213^{m³}です。平成29（2017）年度に1,172,613^{m³}にまで増加しましたが、そこから67%減と大きく減少しています。

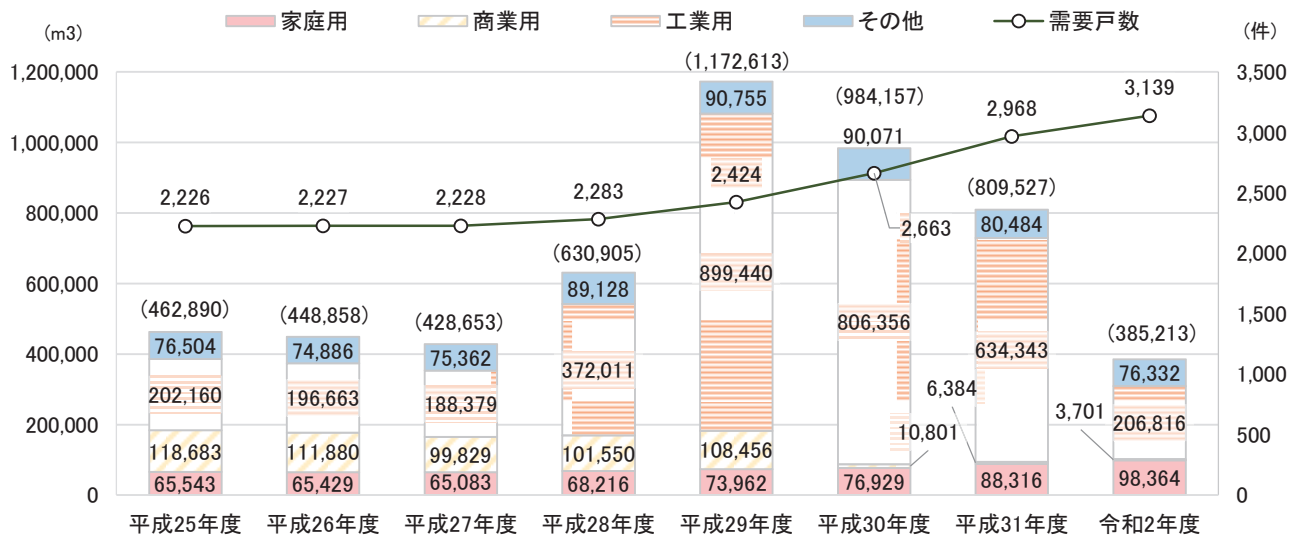


図 都市ガスの使用状況の推移

出典：大井町統計要覧（資料：小田原ガス（株））

③再生可能エネルギーの導入量

本町における再生可能エネルギーによる発電電力量は、「再生可能エネルギー情報提供システム（REPOS）」のデータによると、少しずつではありますが増加傾向にあり、令和2（2020）年度で20,862MWhとなっています。その内訳は、太陽光発電のみであり、10kW以上が圧倒的に多く、同年度は18,540MWhと全体の89%を占めています。10kW未満は2,323MWhと11%を占めています。

また、約26%に相当する電力を再生可能エネルギーで発電していることとなります。

表 再生可能エネルギーの導入状況

| 種別 | 再生可能エネルギーによる発電電力量(MWh) | | | | | | |
|-------------------|------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | H26年度 | H27年度 | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R元年度 | R2年度 |
| 太陽光発電 (10kW未満) | 759 | 1,021 | 1,212 | 1,398 | 1,709 | 2,041 | 2,323 |
| 太陽光発電 (10kW以上) | 16,518 | 17,832 | 18,002 | 18,096 | 18,384 | 18,518 | 18,540 |
| 風力発電 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 水力発電 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 地熱発電 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| バイオマス発電 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 17,277 | 18,853 | 19,214 | 19,494 | 20,093 | 20,558 | 20,862 |
| 区域の電気使用量 | 82,868 | 77,057 | 78,486 | 80,374 | 78,077 | 79,459 | 79,459 |
| 対消費電力に対する割合 | 20.8% | 24.5% | 24.5% | 24.3% | 25.7% | 25.9% | 26.3% |

※再生可能エネルギー導入容量は、FIT 制度で認定された設備のうち買い取りを開始した設備の導入容量を表しております。そのため、それ以外の再生可能エネルギー設備は、本表の値に含まれません。それ以外の再生可能エネルギー設備は、具体的には以下の設備があります。

- ・発電した電気を自家消費で活用する設備（余剰電力を売電しない設備）
- ・FIT 制度開始以前に導入され FIT 制度への移行認定をしていない設備
- ・FIT 制度に認定されていても買い取りを開始していない設備

出典：環境省 HP「自治体排出量カルテ」

■メガソーラー設置運営事業（民間事業者）の一例

「きらめきの丘おおい」

- ・所在：大井町山田字かたぶた 1473 番地 外 89 筆
- ・事業用地面積：68,631 m²（メガソーラー設置面積約 27,700 m²）
- ・事業期間：20 年
- ・発電開始：平成 26 年 3 月
- ・発電規模：2.12 メガワット（ND-245（多結晶）245 [W/枚]）8,640 枚
一般家庭約 600 世帯（大井町総世帯数の約 9%）分の電力を発電
CO₂削減量約 660 t/年（森林面積換算約 180ha/年）

④再生可能エネルギーの導入ポテンシャル

本町における再生可能エネルギーによる導入ポテンシャルは、「再生可能エネルギー情報提供システム（REPOS）」のデータによると、太陽光発電、太陽熱、地中熱の導入ポテンシャルがあります。一方、風力発電、中小水力河川、地熱発電の導入ポテンシャルはゼロとなっておりますが、これは現在の技術水準や法令、土地用途等による制約が考慮されており、今後の技術革新等により増加することも考えられます。

なお、太陽光発電によるポテンシャルは、年間 37,169MWh と示されており、この電力量は、本町の電力需要（79,459MWh）の約 47%の電力量に匹敵します。

表 再生可能エネルギー種別ポテンシャル

| 種別 | 設備容量 (kW) | 設備容量 (MJ) | 年間発電電力量 (MWh/年) |
|-------------|--------------|--------------|--------------------|
| 太陽光発電（※） | 31,000 | — | 37,169 |
| 風力発電 | 0 | — | 0 |
| 中小水力河川 | 0 | — | 0 |
| 地熱発電 | 0 | — | 0 |
| 太陽熱（億 MJ/年） | — | 1 億 | — |
| 地中熱（億 MJ/年） | — | 7 億 | — |
| 合計 | 31,000 | 8 億 | 37,169 |

※「再生可能エネルギー情報提供システム（REPOS）」では、太陽光で公共系太陽光発電の市区町村別導入ポテンシャルは検討されていないため、同上システムの住宅用等太陽光発電の推計値です。

出典：環境省 HP「自治体排出量カルテ」

⑤設備導入費補助

本町では、住宅用太陽光発電システムを設置する町民に対し、設置費用の一部を補助しています。年度ごとの交付件数は以下のとおりです。

表 住宅用太陽光発電システムに対する補助金交付件数

| 年 度 | 交付件数 | 総交付件数 |
|----------|------|-------|
| 平成 29 年度 | 14 件 | 228 件 |
| 平成 30 年度 | 33 件 | 261 件 |
| 令和元年度 | 24 件 | 285 件 |
| 令和 2 年度 | 14 件 | 299 件 |
| 令和 3 年度 | 26 件 | 325 件 |

出典：大井町環境行動計画（町の行動）実績報告書

また、エコカーの普及促進を図るため、電気自動車の購入及び電気自動車用急速充電設備の設置者に対しても補助を行っています。

電気自動車購入の年度ごとの交付件数は以下のとおりです。

表 電気自動車の購入等に対する補助金交付件数

| 年 度 | 四輪車 | 二輪車 |
|----------|-----|-----|
| 平成 30 年度 | 1 件 | 0 件 |
| 令和元年度 | 0 件 | 0 件 |
| 令和 2 年度 | 0 件 | 0 件 |
| 令和 3 年度 | 0 件 | 0 件 |

出典：大井町環境行動計画（町の行動）実績報告書

（３）二酸化炭素排出量（参考）

本町における二酸化炭素排出量は、「再生可能エネルギー情報提供システム（REPOS）」のデータによると、令和元（2019）年度において 96.5 千 t-CO₂ であり、国や神奈川県基準年である平成 25（2013）年度の 113.6 千 t-CO₂ から約 15% 減少しています。

排出量を部門別にみると、運輸部門が 31.1% と最も多く、次いで業務その他部門が 24.8%、産業部門が 24.1%、家庭部門が 18.4%、一般廃棄物が 1.5% と続きます。

全国や神奈川県と比較すると産業部門の占める割合が低く、運輸部門の占める割合が高いのが特徴です。

表 二酸化炭素排出量の部門・分野別構成比

| 部門 | 平成 25 年度 | | 令和元年度 | |
|--------------|-------------------------------|---------|-------------------------------|---------|
| | 排出量 (千 t-CO ₂) | 構成比 | 排出量 (千 t-CO ₂) | 構成比 |
| 合 計 | 113.6 | 100.0 % | 96.5 | 100.0 % |
| 産業部門 | 23.0 | 20.3 % | 23.3 | 24.1 % |
| 製造業 | 21.1 | 18.6 % | 20.1 | 20.8 % |
| 建設業・鉱業 | 1.2 | 1.1 % | 0.6 | 0.6 % |
| 農林水産業 | 0.7 | 0.6 % | 2.6 | 2.6 % |
| 業務その他部門 | 36.6 | 32.2 % | 23.9 | 24.8 % |
| 家庭部門 | 19.9 | 17.5 % | 17.8 | 18.4 % |
| 運輸部門 | 32.5 | 28.6 % | 30.1 | 31.1 % |
| 自動車 | 31.1 | 27.4 % | 29.0 | 30.0 % |
| 旅客 | 19.0 | 16.7 % | 16.7 | 17.3 % |
| 貨物 | 12.1 | 10.7 % | 12.3 | 12.7 % |
| 鉄道 | 1.3 | 1.2 % | 1.1 | 1.1 % |
| 船舶 | 0.0 | 0.0 % | 0.0 | 0.0 % |
| 廃棄物分野（一般廃棄物） | 1.6 | 1.4 % | 1.5 | 1.5 % |

※表の値は小数点以下の値により、構成比の合計が 100% にならないこともあります。

出典：環境省 HP「自治体排出量カルテ」

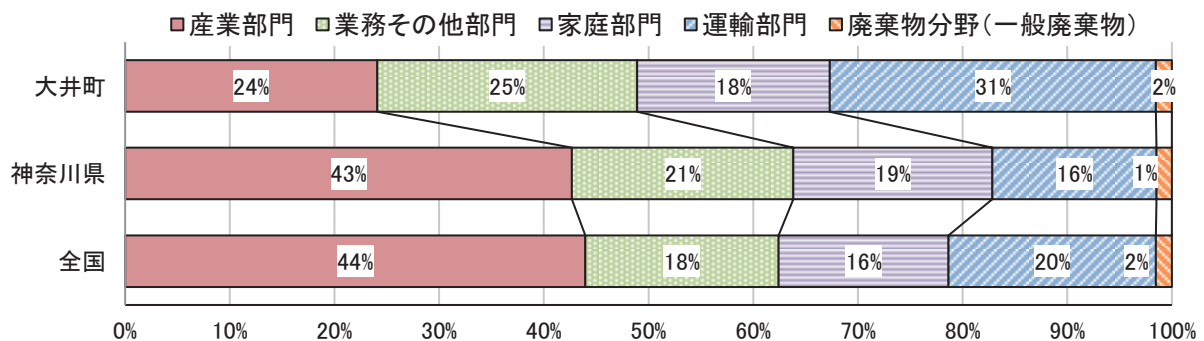


図 二酸化炭素排出量（令和元年度）の部門別構成比

出典：環境省 HP「自治体排出量カルテ」

5. 環境教育・環境保全活動

①環境展の開催

本町では、事業者や各種団体等と協力し、環境改善に関する技術や活動紹介等を行う環境展を開催し、町民等への環境に関する意識啓発を行っています。

表 環境展の来場者数

| 年度 | 来場者数 |
|----------|---------|
| 平成 14 年度 | 1,500 人 |
| 平成 15 年度 | 2,500 人 |
| 平成 27 年度 | 800 人 |
| 平成 29 年度 | 1,800 人 |
| 令和元年度 | 500 人 |
| 令和 3 年度 | 中止 |

※令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し中止しました。

出典：大井町環境行動計画（町の行動）実績報告書



環境展開催状況①



環境展開催状況②



環境展開催状況③

②環境出前講座

本町では、役場職員とともに「学びおいサポーター」の協力を得て、町民に対して「低炭素」、「循環」、「自然共生」の各分野における出前講座を実施しています。

表 環境出前講座の実施回数

| 年度 | 実施回数 |
|----------|------|
| 平成 29 年度 | 14 回 |
| 平成 30 年度 | 13 回 |
| 令和元年度 | 14 回 |
| 令和 2 年度 | 7 回 |
| 令和 3 年度 | 1 回 |

※令和 2 年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し実施回数を縮小しています。

出典：大井町環境行動計画（町の行動）実績報告書



環境出前講座①



環境出前講座②

③おおい自然園

本町の生態系を保全するため、小学生以上の方を対象として、自然観察会や生きもの調査、自然についての情報提供等を行っています。

本事業は、町全体を自然博物館ととらえ、町の自然についての情報発信や「おおい自然園展示会」を開催し、普及・啓発を図っています。

表 令和3年度のおおい自然園事業の実施内容

| 事業 | 実施時期・内容 | 参加者数 |
|--------|------------|------------------------------|
| おおい自然園 | 自然観察会 | 春：12人、初夏：14人、夏：中止、秋：15人、冬：6人 |
| | 生きもの調査 | 23人 |
| | 川の生きもの観察会 | 中止 |
| | 夏の虫観察会 | 中止 |
| | 酒匂川岩石観察会 | 中止 |
| | 酒匂川の野鳥観察会 | 中止 |
| | 火山灰観察会 | 11人 |
| | 海の生きもの観察会 | 中止 |
| | 月・惑星・星座観察会 | 中止 |
| | 冬の星座観察会 | 13人 |
| | 里山炭焼き体験 | 中止 |
| | おおい自然園展示会 | 314人 |

※令和3年度のイベントは新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、縮小または中止しています。

出典：大井町環境行動計画（町の行動）実績報告書



自然観察会（花の観察）



自然観察会（虫の観察）



自然観察会（指輪づくり）



自然観察会（野鳥の観察）

④「おおいゆめの里」整備

本町の自然環境を管理・保全するために、ボランティアの方々の協力を得ながら、「おおいゆめの里」周辺の山林整備を行っています。

荒廃しつつある里山の復元を目指しながら、集客を見込める花木を適度に植栽し、都市住民との交流施設として整備を行っています。

表 ゆめの里育て隊（ボランティア）の作業実績

| 年 度 | 内 容 | 回 数 | 延べ参加人数 |
|----------|-------------------|------|--------|
| 平成 28 年度 | おおいゆめの里の間伐 | 12 回 | 146 人 |
| 平成 29 年度 | おおいゆめの里の間伐 | 8 回 | 100 人 |
| 平成 30 年度 | おおいゆめの里の間伐 | 9 回 | 121 人 |
| 令和元年度 | おおいゆめの里の風倒木の伐採や剪定 | 5 回 | 66 人 |
| 令和 2 年度 | おおいゆめの里の風倒木の伐採や剪定 | 5 回 | 67 人 |
| 令和 3 年度 | おおいゆめの里の風倒木の伐採や剪定 | 9 回 | 78 人 |

出典：大井町環境行動計画（町の行動）実績報告書



おおいゆめの里 案内板



おおいゆめの里周辺

⑤里山保全活動

ボランティア団体「ゆめの里育て隊」との協働により、「おおいゆめの里」周辺の里山管理を行っており、散策道の草刈り、清掃、サルスベリやアジサイ等の剪定を行っています。

6. 町民・事業者の意向調査結果の概要

本計画の策定にあたり、令和4（2022）年8月、町内に在住する町民2,000人（回答者：772人）を対象として、町内の環境の現状や環境配慮として日ごろ行っている取り組み内容、省エネルギー設備の導入状況、環境行政に望む取り組み等に関して、アンケート調査を実施しました。

また、町内の事業者200社（回答事業者：60事業者）に対しても、環境配慮として事業者が行っている取り組みの内容等、実態の把握に努め、本計画の施策の方向を位置付ける基礎資料としました。

（1）町民アンケート結果の概要

■身近な環境について

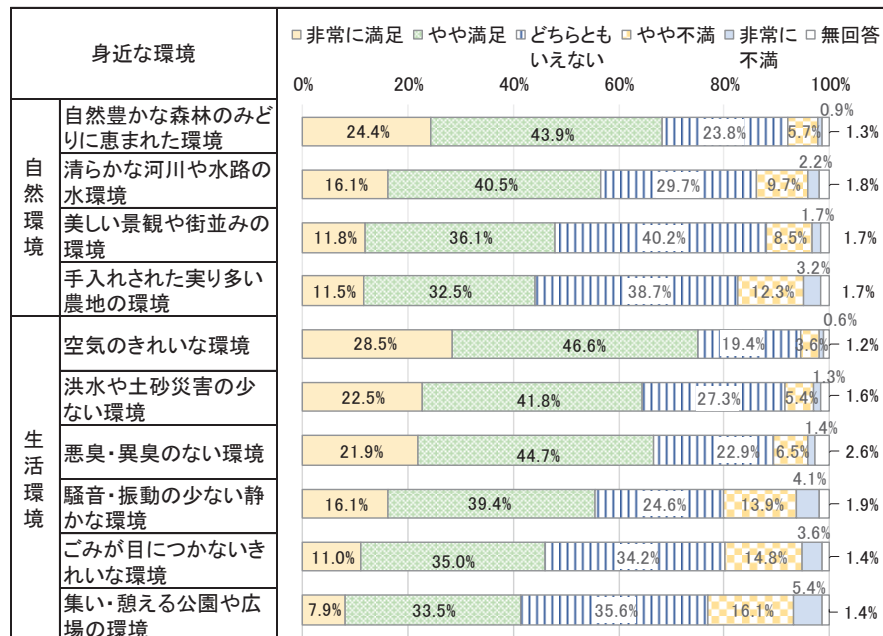
問）あなたは現在の身近な自然環境や生活環境に対して、どのように感じていますか。

○自然環境では「森林のみどりに恵まれた環境」において「非常に満足・やや満足」の回答割合が68.3%と最も高く、次いで「清らかな河川や水路の水環境」が56.6%、「美しい景観や街並みの環境」が47.9%と続きます。

○生活環境では「空気のきれいな環境」が75.1%、次いで「悪臭・

異臭のない環境」が66.6%、「洪水や土砂災害の少ない環境」が64.3%と続きます。

○満足度が低い項目としては、「集い・憩える公園や広場の環境」の回答割合が41.4%と最も低くなっています。



■環境問題のことについて

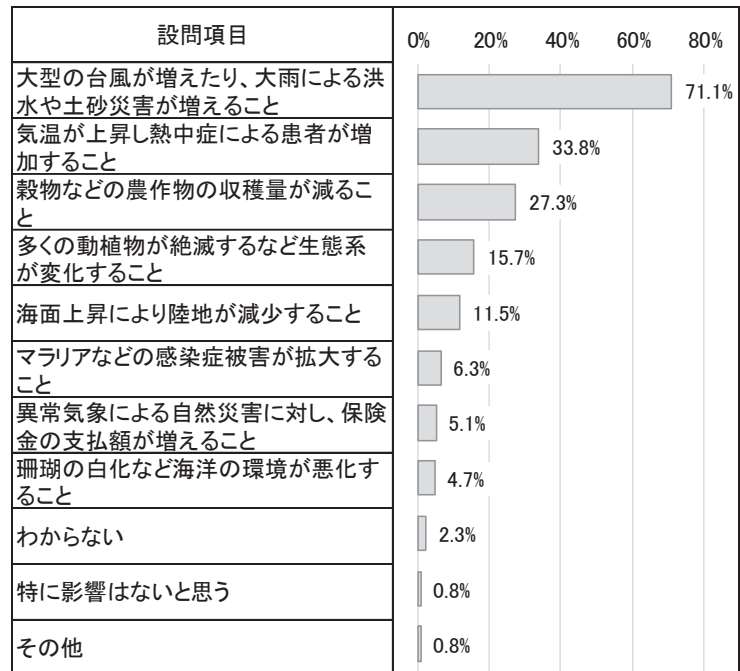
問）近年、特に気にかかる環境問題はどれですか。

○「気にかかる環境問題」としては、「気候変動の影響」の回答割合が83%と圧倒的に高く、次いで「ポイ捨てや不法投棄」57.4%、「プラスチックごみ問題」が49.7%と続きます。

○その他の意見としては、「空き家問題」「農地の荒廃化」「緑の減少」などが挙げられています。

問) 地球温暖化による様々な影響の中で、特に問題となることは何だと思いますか。

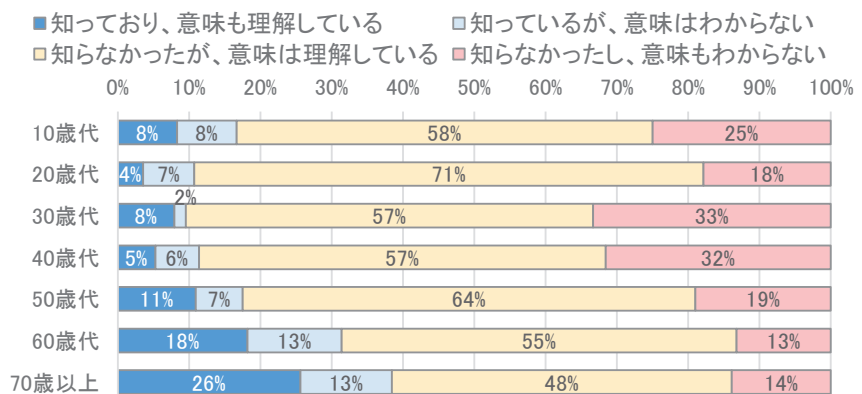
○「地球温暖化による影響」については、「台風や大雨が増えることによる洪水・土砂災害の被害」の回答割合が 71.1%と最も高く、次いで「熱中症による患者増加」が 33.8%、「農作物の収穫減」が 27.3%と続き、人の命・健康・食に関する回答が多い結果となりました。



問) 令和4年3月に「大井町気候非常事態宣言」を行い、2050年までに二酸化炭素の排出実質ゼロを目指しています。このことについてご存知ですか。

○回答者の 15.8%が「知っており、意味も理解している」と回答し、「意味はわからない」も含めて「知っている」が 25.1%にとどまっていることから、宣言について町民の認知度が高いとは言えません。一方で、「意味は理解している」との回答が 69.7%と高く、カーボンニュートラルの理解度は町民に浸透しているものと思われます。

○年代別では、高齢の世代の方が、宣言について「知っており意味も理解している」と回答する割合が高いです。



■環境に配慮した取り組みについて

問) リサイクルや省エネルギーを進める上で、地域や町全体において、どのような取り組みを行っていくべきだと思いますか。

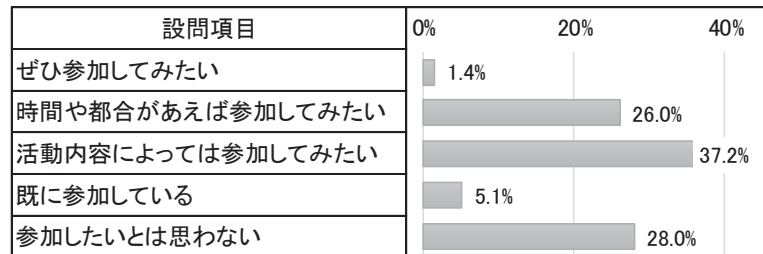
○「一人ひとりが節水・節電に取り組む」の回答割合が 39.6%と最も高く、町民の意識の高さがうかがわれます。次いで「ごみの分別強化、資源の再利用」が 35.5%、「太陽光発電等の自然エネルギーの利用」が 23.4%と続きます。

■環境活動への参加について

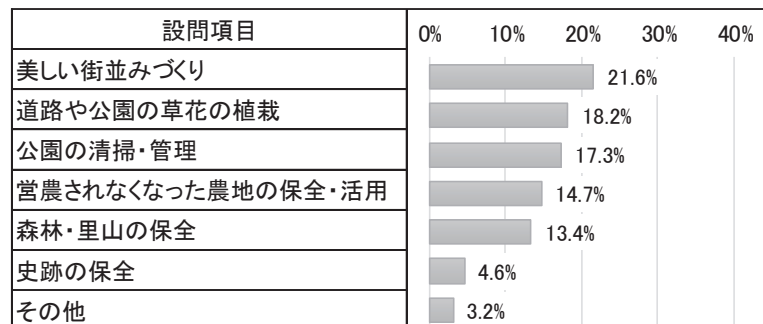
問) 地域の自主的な環境活動へ参加してみたいと思いますか。

「参加してみたい・参加している」を選んだ方は、その活動分野についてお答えください。

- 「環境活動への参加」については、条件付きも含めて「参加してみたい」と「既に参加している」の回答割合は 64.6%にも のぼり、比較的参加に前向きな 姿勢がうかがえます。



- 参加してみたい活動として、「美しい街並みづくり」の回答割合が 21.6%と最も高く、次いで「道路や公園の草花の植栽」が 18.2%、「公園の清掃・管理」が 17.3%と続きます。



■今後の大井町の環境行政の取り組みについて

問) 大井町が行う様々な環境行政施策の中で、特に優先して取り組むべき施策は、何だとお考えですか。

- 「二酸化炭素を出さない取り組みの普及・啓発」の回答割合が 31.7%と最も高く、次いで「太陽光発電など自然エネルギー設備の普及」が 25.1%、「ごみの不法投棄に対する監視」が 24.1%、「緑や生き物の保護」が 18.4%、「自然とふれあえる公園やまちの緑化」が 17.5%、「河川や水路の水質浄化や汚染防止」が 15.5%、「プラスチックごみの削減」が 14.8%、「生ごみ処理機の導入に対する助成」が 13.9%、「乱開発の防止」が 13.6%と続きます。

(2) 事業者アンケート結果

■環境に配慮した取り組みについて

問) 貴事業所内での環境に配慮した行動として、取り組みを行っていますか、または行う予定がありますか。

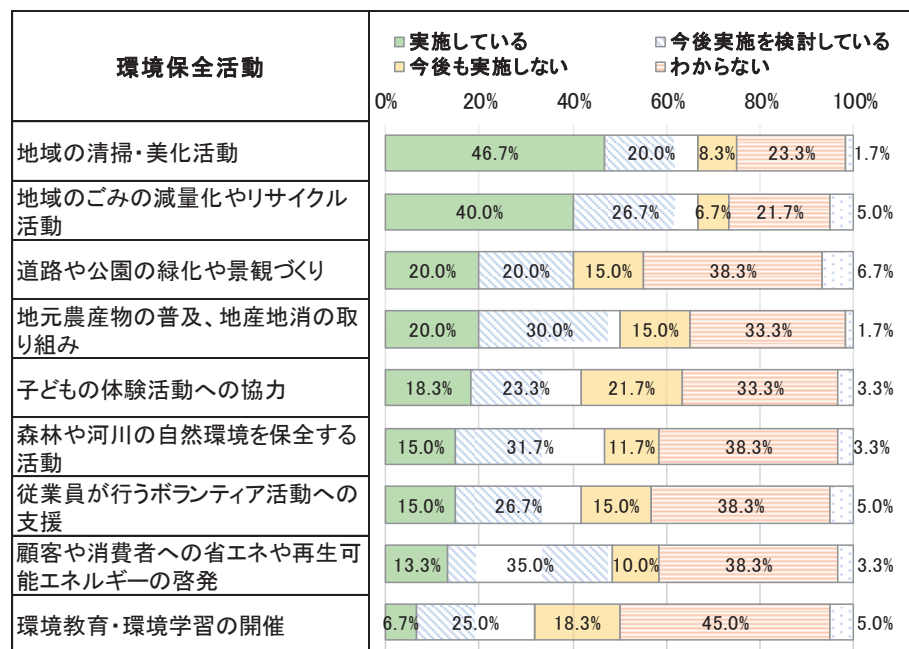
- 「環境に配慮した取り組み」として、「事業活動における省エネの実践」、「廃棄物の適正処理」はともに「実施している」の回答割合が 96.7%と非常に高く、「廃棄物の省資源化」は 86.7%、「節水対策」も 81.7%と高いです。
- 「環境保全活動に参加・協力」に関しては、「実施している」の回答割合が 23.3%と決して高くはありませんが、「今後実施したい」と回答している割合が 50.0%と高く、今後の活動に前向きな姿勢がうかがえます。

問) 省エネ・再生可能エネルギーに関して、次の導入等を行っていますか。

- 「LED照明の導入」は「実施している」と回答する割合が66.7%と最も高く、導入が進んでいます。次いで「高効率空調機の導入」が26.7%、「省エネルギー診断の受診」と「窓の断熱の導入」がともに20.0%と続いています。費用の面等の理由で、まだまだ導入が進んでいない状況もうかがえます。
- 「今後実施したい」と回答する割合が高い項目として、「プラグインハイブリッド、電気自動車等の導入」が56.7%と最も高く、次いで「再生可能エネルギー由来の電力の調達」が51.7%と続き、今後の導入に期待がもてます。
- 「太陽光発電設備の導入」については、「実施している」と回答する割合は11.7%にとどまっており、「今後実施したい」と回答する割合も38.3%にとどまるなど、主に費用の面で導入には慎重な姿勢がうかがえます。

問) 住民等と連携した地域での環境保全活動を行っていますか。

- 「実施している」との回答は、「清掃・美化活動」が46.7%、「ごみの減量化・リサイクル活動」が40.0%と高いです。
- 「今後実施を検討」との回答がどの活動項目でも2割から3割を占めており、活動に対する前向きな姿勢が現れており、今後の活動への参加に期待がもてます。



■環境行政に期待することについて

問) 行政に対してどのようなことを期待（要望）しますか。


- 「電気自動車等の次世代自動車導入の支援」の回答割合が41.7%と最も高く、次いで「設備改善や再生可能エネルギー導入のための支援」が40.0%と続きます。

7. 大井町の環境課題

ここまで整理した本町の環境の現状を踏まえ、自然環境、生活環境、地球環境、環境教育・環境保全活動の4つの分野ごとに、環境課題を整理します。

①自然環境

| | |
|------------|--|
| 社会情勢 | <p>◆環境省は、令和4(2022)年4月に「30by30 ロードマップ」を策定し、30by30目標の達成に向けたカギとなるOECDの設定・管理、生物多様性の重要性や保全活動の効果の「見える化」等を掲げています。</p> |
| 水をとりまく現状 | <p>1) 河川と用水路 ◆酒匂川、菊川、中村川などの河川が流れており、用水路は、古くから整備され、水田の灌漑用水としての役割を果たしています。</p> <p>2) 湧水 ◆平坦地から起伏に富んだ丘陵地まで、様々な地形で成り立っており、河川のみならず地下水も豊富で水に恵まれた町です。各所に湧水が湧き出ている場所があるものの、一部では湧水量が減少してきているという指摘もあります。</p>   |
| 緑をとりまく現状 | <p>1) 農地 ◆経営耕地面積は年々減少しており、令和2(2020)年の面積は14,310a、25年前と比べて14,889aも減少(約51%減)しています。</p> <p>2) 保全地域等の指定 ◆丘陵地には、広く森林地域が広がっており、県の自然環境保全地域や保安林に指定された区域があります。また、鳥獣保護区としては、開成町との境を流れる酒匂川のほか、三嶋社、了義寺のエリアが指定されています。</p> <p>◆地域水源林の整備率は令和3(2021)年度現在で47.1%(35.3ha)です。</p> <p>3) 植生 ◆温暖で夏に雨の多い太平洋型の気候であり、常緑広葉樹林が覆っていた植生帯にあたります。篠窪の三嶋社や山田の了義寺周辺の森に、この地方の自然林の様子を見ることができます。</p> <p>◆丘陵部は、細かい谷が縦横に刻み込まれた複雑な地形に、薪炭林として利用してきた雑木林、畑、果樹園など様々な植生がモザイク状に分布しています。</p> <p>◆平野部は、酒匂川の河川植生を除いて自然植生はほとんど現存せず、水田や畑の耕地雑草群落以外では、酒匂川の土手などに見られる多年草群落と河川敷の草本群落が主となります。</p>  |
| 生き物をとりまく現状 | <p>1) 丘陵部の動物 ◆高尾、赤田、篠窪などの里山では、ヒメネズミ、ニホンリス、タヌキ、アナグマなどが見られ、かつてはムササビも生息していました。</p> <p>◆野鳥では、夏鳥のキビタキ、オオルリ、クロツグミ、留鳥のアオゲラなど、山地性の種類も見られます。また、これらの地域では、オオタカやノスリなど、猛禽類の出現も比較的高いです。</p> <p>◆は虫類では、タカチホヘビ、ジムグリ、ヒバカリなどが確認されています。</p> <p>◆昆虫では、オオムラサキ、ノコギリクワガタ、ハグロトンボ、ヒガシキリギリス、ヒグラシなどが確認されています。</p> |

| | |
|------------|--|
| 生き物をとりまく現状 | <p>2) 平野部の動物</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆水鳥が多く確認され、春と秋にのみ確認される渡り鳥が多いことが特徴的です。渡り鳥は主に酒匂川の中州や水辺で確認されますが、酒匂川の後背湿地として豊富な餌と安心して休息できる場となる水田や休耕田にも多く見られ、渡り鳥にとっては、欠かすことのできない環境となっています。また、近年ではその姿を消してきているタマシギやバンなどの営巣も確認されています。 ◆酒匂川の河川敷では、イタチなどのほ乳類が確認されています。 ◆トウキョウダルマガエル、イモリ、ツバメ、スズメなどは、平野部から徐々に姿を消していています。 ◆本町の野生種ではないコハクオナジマイマイ、アカボシゴマダラ、ヨコヅナサシガメ、キマダラカメムシ、ムネアカハラビロカマキリ、ガビチョウなど、国内外の外来種が増えつつある状況です。 <p>3) 有害鳥獣</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆有害鳥獣による農作物被害を防止するため、生態系との調和を図りつつ有害鳥獣の駆除を行っています。 |
| 景観をとりまく現状 | <p>1) 景観</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆足柄平野を流れる酒匂川と低地に広がる水田、丘陵地の里山の風景、高台から見た富士山や箱根の山々など、四季を通じた美しい景観を有しています。  |
| アンケート結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境で満足度が高い項目として、自然環境では「森林のみどりに恵まれた環境」の回答割合が最も高く約 68%が満足と回答しています。次いで「清らかな河川や水路の水環境」、「美しい景観や街並みの環境」と続きます。 ・「不満」との回答割合は全体的に低く、全般的に満足度は高い結果となりました。 ・環境保全活動に参加してみたい分野としては、「美しい街並みづくり」が約 22%と最も高く、次いで「道路や公園の草花の植栽」「公園の清掃・管理」と続きます。 |

自然環境の課題

| | |
|---|---|
| 水 | <p>① 町内を流れる豊かな河川や用水路の水辺環境を次世代に保全・継承していく必要があります。</p> <p>② 近年、樹林の荒廃や水田の減少等により涵養機能が損なわれ、一部の湧水箇所では流量が減少しているという指摘もあるため、湧水箇所周辺の保全とともに水源となる森林や農地の保全・維持が必要です。</p> |
| 緑 | <p>① 年々減少傾向にある農地は集積・集約化等の推進により保全しつつ、遊休農地の有効活用等についても検討していく必要があります。</p> <p>② 自然環境保全地域や保安林等の保全をはじめ、地域水源林の整備による公益機能の再生を推進する必要があります。</p> <p>③ おおいゆめの里周辺をはじめとする里山（雑木林）における間伐等の管理と活用の促進が必要です。</p> <p>④ 町民の自発的な緑化活動の推進を推奨し、まちなかの緑化の推進が必要です。</p> |

| | |
|-----|---|
| 生き物 | <ul style="list-style-type: none"> ① 多様な生物の生息・生育空間となる樹林、里山（雑木林）、農地等の環境の保全・維持が必要です。 ② 平地部における水辺に生息する生き物や渡り鳥の生息環境の保全・維持にも留意が必要です。 ③ 地域と協力しながら有害鳥獣の駆除を行っていく必要があります。 |
| 景観 | <ul style="list-style-type: none"> ① 町内のどこからでも富士山が見えるというこの美しい景観を保全するため、町民に周知を徹底していく必要があります。 |

②生活環境

| | |
|-----------------|---|
| 社会情勢 | <ul style="list-style-type: none"> ◆令和元（2019）年に「食品ロスの削減の推進に関する法律」が施行され、食品ロスの削減に関する国、地方公共団体等の責務や施策の基本となる事項を定めています。 ◆「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が令和4（2022）年に施行され、製品の設計からプラスチック廃棄物の処理までに関わるあらゆる主体におけるプラスチック資源循環等の取り組み（3R+Renewable）を促進するための措置が講じられることとなりました。 |
| まぐ現状 大気をとり | <ul style="list-style-type: none"> 1) 大気 <ul style="list-style-type: none"> ◆近隣自治体における大気汚染物質の測定結果は、環境基準を満たしています。 2) 交通 <ul style="list-style-type: none"> ◆自動車課税台数は、近年横ばいで推移しています。 |
| まぐ現状 水質をとりまぐ | <ul style="list-style-type: none"> 1) 河川と用水路 <ul style="list-style-type: none"> ◆主要な河川・水路の9地点において毎年水質検査を実施しており、結果は、どの地点でも概ね良好です。 2) 町営水道 <ul style="list-style-type: none"> ◆本町の水道水は、すべてを地下水により賄っております。その水質は現在にいたるまで異常はありません。 |
| まぐ現状 公園をとり | <ul style="list-style-type: none"> 1) 公園 <ul style="list-style-type: none"> ◆町内には、大井中央公園をはじめ17の公園や広場があり、その他、酒匂川やおおいゆめの里といった行政が管理する緑地も、公園と類似した機能を有しています。また、民間所有等の緑地は丘陵部に広く分布しています。 |
| アンケート結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境で満足度が高い項目として、生活環境では「空気のきれいな環境」の回答割合が最も高く、約75%が満足と回答しています。次いで「悪臭・異臭のない環境」、「洪水や土砂災害の少ない環境」と続きます。 ・「不満」との回答割合は全体的に低く、全般的に満足度は高いですが、その中でも満足度が比較的低い項目としては、「集い・憩える公園や広場の環境」の回答割合が41.4%と低くなっています。 |

生活環境の課題

大気

- ① 公共交通機関の利用とマイカー利用の抑制を推進する必要があります。
- ② 農業に関係のない無用な野焼きの抑制に対し、指導が必要です。

水質

- ① 河川や用水路の継続的な水質調査の実施と、下水道処理区域外における合併処理浄化槽の設置の促進が必要です。

公園

- ① 子どもから高齢者まで、幅広い市民に親しんでもらえる空間の創出が必要です。
- ② 「おいゆめの里」への来場者が増えるような、特色ある施設の整備・維持管理が必要です。

コラム

「海洋プラスチックごみ」



5mm 以下になったプラスチックを「マイクロプラスチック」と呼んでいます。

私たちの身の回りには、たくさんのプラスチック製品であふれています。これらのプラスチックの多くは、「使い捨て」されることも多く、利用後に、きちんと処理されずに環境中に流出してしまうこともあります。その流出したプラスチックのほとんどが最終的に行きつく場所が海です。




既に海に流出したプラスチックごみは、合計で 1 億 5,000 万トンとも言われており、そこに少なくとも年間 800 万トンも、新たに流出しているという推定結果もあります。

こうしたプラスチックごみは、海の生態系に大きな影響を与えています。例えば漁網などにかからまったり、ポリ袋を餌と間違えて食べてしまったり、魚や鳥、アザラシ、ウミガメなど、多くの生き物が傷ついたり死んだりしています。

一度流出したプラスチックごみは、海岸での波や紫外線等の影響を受けるなどして、やがて小さなプラスチックの粒子となります。5mm 以下になったプラスチックは、「マイクロプラスチック」と呼ばれていますが、これらは、細かくなっても自然分解することはなく、数百年間以上もの間、自然界に残り続けると考えられています。



③地球環境（循環型社会、脱炭素社会）

| | |
|--------------|---|
| 社会情勢 | <ul style="list-style-type: none"> ◆令和3（2021）年の気候サミットにおいて、国は「2030 年度において温室効果ガスの 2013 年度からの 46%削減をめざす。さらに、50%の高みに向け、挑戦を続ける」という決意を表明しました。 ◆令和4（2022）年に閣議決定された「地球温暖化対策の推進に関する法律の一部を改正する法律案」においては、「2050 年カーボンニュートラル」を基本理念として法に位置付けました。 ◆平成 30（2018）年に施行された「気候変動適応法」を受けて、温室効果ガスの排出量を減らす「緩和策」に加えて、気候変動による被害を回避・軽減する「適応策」にも、より一層取り組む必要があります。 |
| ごみをとりまく現状 | <p>1) ごみの排出</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆令和2（2020）年度のごみの総排出量は 5,499t でした。これは、10 年前の平成 22（2010）年と比較すると、8.7%減となります。 ◆新型コロナウイルス感染症による影響により、令和2（2020）年度は、資源ごみ、不燃ごみ、粗大ごみが前年の令和元（2019）年度より増加しています。 ◆令和3（2021）年度の町民 1 人あたりのごみの排出量は 1 日あたり 718g、ごみ資源化率は 23.7%です。 <p>2) 資源ごみの回収</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆資源ごみの回収量は、近年、減少傾向で推移しており、令和3（2021）年度は 16,887kg となっています。  |
| 食品ロスをとりまく現状 | <p>1) 食品ロス発生量</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆令和4（2022）年度の調査によると、調理くずを除く直接廃棄及び食べ残しとする「食品ロス」の 1 人 1 日あたりの発生量は、59.8g/人・日でした。 ◆その内訳を見ると直接廃棄（100%残存）が 38.4g/人・日、食べ残しが 14.9g/人・日と推計されています。 |
| 気候変動の傾向と予想 | <ul style="list-style-type: none"> ◆横浜における年平均気温は上昇傾向にあり、100 年あたりで約 1.9℃上昇しています（横浜地方気象台）。 ◆全国の真夏日の年間日数は増加しています。 ◆全国的には、一時間降水量 50mm 以上の短時間強雨の発生回数は、長期的に有意な上昇傾向を示しています。 ◆「温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究」によると、21 世紀末には、現状を上回る温暖化対策を取らない場合、1986 年から 2005 年の平均気温より、最大で 6.4℃上昇すると予想されています。 |
| 再生可能エネルギーの現状 | <p>1) 電力需要（参考）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆電力需要は、近年では増減を繰り返しつつ横ばい傾向にあります。 ◆部門別にみると業務が 50%と半分を占めており、次いで家庭が 32%、製造業が 13%と続き、この3部門で全体の 95%を占めます。 <p>2) 再生可能エネルギーの導入量（参考）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆再生可能エネルギーによる発電電力量は増加傾向にあり、令和2（2020）年度で 20,862MWh となっています。 ◆電力需要の約 26%に相当する電力を発電していることとなります。   |

温室効果ガス
排出量の現状

1) 二酸化炭素排出量（参考）

- ◆本町の二酸化炭素排出量は、環境省の「再生可能エネルギー情報提供システム」のデータによると、令和元（2019）年度において 96.5 千 t-CO₂ であり、平成 25（2013）年度の 113.6 千 t-CO₂ から約 15% 減少しています。

アンケート結果

- ・身近な環境で「気にかかる問題」としては、「気候変動の影響」の回答割合が約 83% と圧倒的に高く、次いで「ごみのポイ捨てや不法投棄」「プラスチックごみ問題」と続きます。
- ・「大井町気候非常事態宣言」について、「知っており、意味も理解している」と回答したのは約 16%、「知っているが意味はわからない」も含めても約 25% にとどまっており、町民への認知度は決して高いとは言えません。
- ・「地球温暖化による影響」については、「台風や大雨が増えることによる洪水・土砂災害の被害」が最も多く、次いで「熱中症による患者増加」「農作物の収穫減」と、命・健康・食等に関することが多いです。
- ・「特に優先して取り組むべき環境行政の施策」としては、「二酸化炭素を出さない取り組みの普及・啓発」の回答割合が約 32% と最も高く、次いで「太陽光発電など自然エネルギー設備の普及」、「ごみの不法投棄に対する監視」と続きます。

地球環境の課題

ごみ

- ① 廃棄物の分別収集や資源回収の推進、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の徹底等により、廃棄物の減量化を図る必要があります。
- ② プラスチックごみの削減や使い捨て型のライフスタイルの見直しが必要です。
- ③ 資源ごみの回収を実施する団体の掘り起こしが必要です。
- ④ 段ボールコンポストの普及に向けた、町民に対するさらなる周知徹底が必要です。
- ⑤ 不法投棄の防止に向けた周知・啓発が必要です。

食品ロス

- ① 食品ロス量に関する定期的な調査の実施が必要です。
- ② 食品ロスの削減に関する情報発信及び周知・啓発が必要です。

気候変動
への適応

- ① 洪水の発生リスクに備えるために、住民等の自助・共助の重要性に対する意識啓発が必要です。
- ② 熱中症対策として、夏期における注意喚起や屋外イベント等での対応ルールの検討、クールスポットの設置、まちなかの緑陰の確保などが必要です。

再生可能
エネルギー

- ① 太陽光発電等、再生可能エネルギー導入の推進が必要です。

温室効果ガス
排出量の削減

- ① 中長期的な温室効果ガス排出量の削減（緩和）と 2050 年カーボンニュートラルを目指したロードマップの検討が必要です。
- ② 町行政による率先した省エネ、節電等の取り組みが必要であり、脱炭素化の取り組みの情報発信（取り組みの見える化）が必要です。

④環境教育・環境保全活動の取り組み

環境教育・学習の現状

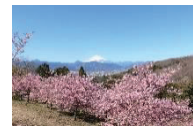
- 1) 環境展の開催
 - ◆事業者や各種団体等と協力し、環境改善に関する技術や活動紹介等を行う環境展を開催し、町民等への環境に関する意識啓発を行っています。
- 2) 環境出前講座
 - ◆役場職員とともに、学びおいサポーターの協力を得て、町民に対して「低炭素」・「循環」・「自然共生」の各分野における出前講座を実施しています。
- 3) おおい自然園
 - ◆生態系を保全するため、小学生以上の方を対象として、自然観察会や生きもの調査、自然についての情報提供等を行っています。
 - ◆町全体を自然博物館ととらえ、町の自然についての情報発信や「おおい自然園展示会」を開催し、普及・啓発を図っています。



環境展開催状況

環境保全活動の現状

- 1) 「おおいゆめの里」整備
 - ◆自然環境を管理・保全するために、ボランティアの協力を得ながら、「おおいゆめの里」周辺の山林整備を行っています。
 - ◆荒廃しつつある里山の復元を目指し、集客を見込める花木を適度に植栽し、都市住民との交流施設として整備を行っています。
- 2) 里山保全活動
 - ◆ボランティア団体「ゆめの里育て隊」との協働により、「おおいゆめの里」周辺の里山管理を行っており、散策道の草刈り、清掃、サルスベリやアジサイ等の剪定を行っています。



アンケート結果

- ・約65%の方が、条件によっては「環境保全活動に参加してみたい」または「参加している」と回答しています。
- ・また、参加してみたい活動として、「美しい街並みづくり」が最も多く、次いで「道路や公園の草花の植栽」「公園の清掃・管理」と続きます。
- ・事業者アンケートでは、住民等と協働で実施している活動として、「清掃・美化活動」、「ごみの減量化・リサイクル活動」が多いです。

環境教育・環境保全活動の課題

環境教育

- ① 感染症にも配慮・工夫した各種イベントの開催（オンライン、動画配信等）が必要です。
- ② 各校における環境教育の実践と、子ども環境サミットのような体験・話し合う場の検討が必要です。
- ③ 環境出前講座の講師をはじめ、環境リーダーの人材確保が必要です。

環境保全活動

- ① 町民が参加したいと思える効果的なPR方法や活動内容等の検討が必要です。
- ② 活動団体が今後も活動を継続できるような支援や協力体制の確立、新規活動団体の掘り起こし等が必要です。